

平成28年度
事業報告



学校法人 加計学園

建学の理念

ひとりひとりの
若人が持つ能力を
最大限に引き出し
技術者として
社会人として
社会に貢献できる
人材を養成する

目次

理事長挨拶	1
法人全般	2
岡山理科大学	19
倉敷芸術科学大学	31
千葉科学大学	41
岡山理科大学附属高等学校	49
岡山理科大学附属中学校	55
岡山理科大学専門学校	60
玉野総合医療専門学校	65
御影インターナショナルこども園	72

理事長挨拶

学校法人 加計学園
理事長・総長 加計 晃太郎



今般、中央教育審議会では、第2期教育振興基本計画の検討が行われておりますが、グローバル化の進展や産業構造・就業構造の転換などによる大きな社会変動が進む中、新たな時代に対応できる人材の育成に関して、大学教育に対する社会からの評価はいまだ厳しく、大学教育の質的転換が強く求められています。

このため、教育振興基本計画では、「知識を基盤とした自立、協働、創造の社会モデル実現に向けて、学生の主体的な学びを確立する」ことを成果目標に掲げ、そのための具体的方策として、大学教育の質的転換や大学等の質保証の確立を図るとともに、高大接続改革など、柔軟な教育システムの構築が進められています。

大学においては、三つのポリシーに基づいた教育の充実に向けたPDCAサイクルの確立を進めることが必要とされ、本学園においても従来の入学者選抜及びカリキュラム、学位授与について点検・見直しを行い、教育の質を担保して参りたいと思います。

また、今年度より岡山理科大学及び千葉科学大学に新学長が就任され、新しい執行部のもと、図書館機能の強化とアクティブラーニングの導入により学生の主体的な学びを促進するなど教育改革と特色ある研究の重点化を図っております。倉敷芸術科学大学においては、倉敷市との連携による産学連携を通じCOC事業を継続し、地域課題に取り組むアクティブラーニングを実践し教育の充実に努めているところです。

中学校、高等学校については、中央教育審議会の高大接続システム改革にて求められている「生徒一人一人が義務教育を基盤として『学力の3要素』を身につける」ことを目指し、SSH事業を展開しながら学習・指導方法の充実と教員の資質向上に努めて高等教育に繋げてきた結果、SSH事業の一年間の継続が認められました。

専門学校においても教育の質保証の確立を図りつつ、実践的な職業教育により社会で即戦力となりうる人材の育成に努めました。

さらには、既存の学部学科における教育改革はもちろんのこと、平成29年度には岡山理科大学に経営学部開設を目指し、倉敷芸術科学大学においても新たに危機管理学部を開設し、地元地域との連携によって開かれた大学、開かれた学園づくりに向けた取り組みを積極的に推進することで地域貢献、社会貢献できる人材育成を展開しているところです。

現代は、時代と社会の変革が日進月歩を通り越え、加速度的に進んでおります。過去に成果が得られたのだから将来に渡っても同じ成果が得られるであろうと考えるような伝統主義は、こと教育現場においては固く戒めねばならないことであり、折に触れ申し述べておりますように、常に時代の流れを見据え、「新しい社会と時代に貢献できる人材養成」を今後も推進していきます。

このため、建学の理念に基づくミッションを掲げ、各設置校におけるビジョン及びアクションプラン策定のプロセスを通して、教育を創造する構成員である誇りを再認識し、教育の質保証を図って参りたいと考えております。

以上のことを念頭に、今年度も学園ならびに各設置校におきましてさらなる教育事業を展開しつつ、魅力ある学園づくりに努めました。

平成28年度 事業報告

法人全般

法人としての取組

■中長期計画の策定

本学園創立50周年から新たな一歩を踏み出した今、学園全体として進むべき方向性を一致させるため、建学の理念に基づくミッションを掲げ、各設置校が明確なビジョン（将来像）を策定し、これを達成するためのアクションプラン（道筋）を示すと共に、教職員がこれを共有し、内部質保証システムを構築することによって教育の質向上を図ります。平成28年度は、三大学においてビジョンとアクションプランが策定され、これに基づく事業を平成29年度は実施していきます。

■将来計画・構想

1. 三大学学長会議

岡山理科大学・倉敷芸術科学大学・千葉科学大学の学長及び事務局長等による会議を毎月1回定期的に行い、各大学の近況を報告し、共通性のある課題の提案や検討をしています。今年度は中央教育審議会等の審議動向を踏まえ、大学教育の質的転換を実現するため、3ポリシーの見直し、また、ポリシーを起点とする教育の質保証などについて各大学の方向性を検討しました。また、各種規程改正や認証評価制度、補助金制度などを通して顕在化した教育研究、管理運営面の課題を検討しました。

■施設・環境整備事業

1. 事務系サーバの移設

岡山理科大学A1号館の建設に伴い、理大町内の事務系LANの再構成と敷設を7月下旬～8

月上旬にかけて実施しました。

- ①50周年記念館～25号館光配線の敷設
- ②高校1校舎～25号館光配線の敷設
- ③A2号館 計算機室内工事
- ④財務サーバ移転工事
- ⑤回線移転工事
- ⑥A1号館3F機器室内工事
- ⑦TV会議システムと理大町-倉敷-千葉等の内線電話回線の整備を順次行いました。

次いで、8月12日事務系サーバの移設を行い、理大町内のLAN回線の接続確認を行い一連の移設作業を終えました。

2. 省エネルギーの推進

省エネルギー推進委員会の定期開催の実施及び省エネルギーに対する教職員の意識向上に努め、原単位（エネルギー使用量を床面積で除した値）年間1%以上の削減を目指しましたが、平成28年度は原単位対前年度比3.1%増加しており、目標は達成できませんでした。来年度は1%削減出来るよう、より一層、力を入れて省エネに取り組めます。

3. 環境整備

学生生徒及び教職員にとってより快適な学習、研究及び職場環境の提供に努めました。理大創立当時に建築された第一学舎が取り壊され、平成29年3月、その跡地に芝生広場が完成しました。

■コンプライアンス体制の見直し

1. 瀬戸内海環境保全特別措置法及び水質汚濁防止法

瀬戸内海環境保全特別措置法及び水質汚濁法の改正に伴い、各種届出を行い、また特定施設（流し）の定期点検を行いました。

2. 土壌汚染対策法

岡山理科大学第一学舎、第1・2・10号館の建物解体に伴い、基礎部分が土壌汚染対策法に抵触するため適宜、岡山市との協議を行いました。

3. 水質汚濁防止法

総合排水口での排水基準値を遵守しています。

4. 建物環境衛生管理（ビル管理）の徹底

岡山理科大学A1号館が建築物衛生法に該当するため、定期的な水道水質検査が必要となり、7月及び平成29年1月に実施しました。

5. 障害者差別解消法への対応

平成28年4月施行の障害者差別解消法への対応として各大学で障がい学生の支援規程を整備し、研修及び啓発を行うとともに、障がい学生への対応窓口を設けるなど、環境整備等支援の充実を図りました。

■リスク管理

1. 防災計画の見直し

岡山理科大学A1号館の使用開始に伴い、消防計画に定める自衛消防組織編成を、これまでのA～Dの4ブロックにA1ブロックを加え5ブロック編成としました。

2. 災害対策

学園防災対策委員会を6月6日に開催し、火災・地震暴風雨等、危険物、交通、防犯の4小委員会から平成27年度の活動報告及び平成28年度の取り組み等の説明があり、承認されました。

職員に対する防災訓練、救急救命講習等の実施に加え、防災管理者を選任し、防災管理教育を行い、防災管理者による避難訓練を行いました。

学生及び教職員等に対する救命講習を実施しました。「防災週間」を踏まえ9月7日に、教職員を対象に新1号館（A1号館）の消防設備等について説明すると共に岡山市危機管理室職員により「岡山のぼうさい」と題して防災講演を実施し防災意識の高揚を図りました。

新1号館完成に伴い、新たな自衛消防編成により平成29年2月28日岡山市北消防署と共に消火、通報、避難訓練等消防訓練を実施しました。

平成28年度 救命講習実績

No.	開催日	研修対象	内容
1	5月25日	附属高校健康スポーツコース	普通救命講習会
2	6月3日	岡山理科大学生物地球学科	救命講習会
3	9月9日	岡山理科大学体育局	普通救命講習会
4	9月17日	岡山理科大学附属中学教職員	普通救命講習会
5	10月14日	岡山理科大学教職員	普通救命講習会
6	12月2日	岡山理科大学教育学部学生	救命講習会



■会計・監査体制の見直し

1. 会計システムのリプレイス

会計システムをA2号館に移動し、耐用年数超過のサーバーを更新し、各設置校との接続方法の見直しを行いました。

■教職員の人材育成

1. 職員研修

昨年より実施している階層別研修（初任者研修、役職者研修等）を実施しました。

テーマ/タイトル	研修対象
加計学園の職員として	新採用職員
新採用者研修会	新採用職員 (主に採用1、3年目)
全国的な傾向と3設置校の状況を概観して	学園職員 (主に大学職員)
『大学で起こるハラスメント 事例をもとに考える』	学園職員
『ハラスメントの加害者にならない為に!!』	学園職員
『異文化理解のために』研修および冊子制作打合せ	学園職員 (主に採用1～3年目)
各設置校見学	学園職員 (主に採用1～2年目)
役職者研修会	学園職員他
学園ビジョン・アクションプランの策定について	学園職員
「異文化理解のために」成果発表会	学園職員
『総合的危機管理について』	学園職員
障がい学生に対する合理的配慮を考える	学園職員
理大中期目標に対するKPI設定について (講演会)	学園職員 (主に大学職員)
理大中期目標に対するKPI設定について(グループワーク)	学園職員



2. 進化する自己点検・勤務考課

事務職員一人ひとりが、業務改善や連携の強化など活力ある組織を目指すべく、各部署・個人ごとに目標を持って取り組むようさらなる定着を図るため、次年度に向けて目標設定方法を見直し、進捗、達成度の見える化に向けた検討を行いました。

■労務管理

1. メンタルヘルス

ストレスチェック制度の導入に伴うメンタルヘルス不調の職員に対する職場復帰支援について、プログラム及び規程の検討を行いました。

2. 大学・中・高・専門学校非常勤講師の労働契約

労働契約法への対応として無期転換を踏まえた規程の整備を行いました。

3. 女性活躍推進法行動計画の策定

平成28年4月1日施行の女性活躍推進法に基づき、5ヶ年の行動計画を策定し、女性が職業生活において活躍出来る環境整備に取り組みました。

① 計画期間：平成28年4月1日

～平成33年3月31日

② 目標：労働者に占める女性労働者の占める割合を25%以上にする。

女性管理職を5名程度増やす。

4. 次世代育成行動計画の実施

次世代育成支援対策法に基づき策定した行動計画に沿って教職員が仕事と子育ての両立を図ることができる環境づくりに努めました。

■地域貢献・地域連携

1. 包括連携協定

児童福祉の充実と発展に寄与するため、9月30日に石井十次記念友愛社（宮崎県木城町）と、また、地域社会の発展と学術の振興等を目指すため、10月27日に鹿児島県始良市と、それぞれ包括連携協定を締結しました。

2. 地元企業・近隣町内会等との連携

地元をホームタウンとするプロスポーツクラブのファジアーノ岡山FC（サッカー）及び岡山シーガルズ（女子バレー）とのスポンサー契約を継続し、地元のスポーツ活動を支援すると共に、西大寺会陽への協賛や近隣町内会との交流等引き続き行い、地域との積極的な連携を図りました。

■その他事業

1. 「教育こそ、わが人生—加計勉伝」編纂
序章から終章まで計8章で構成する名誉理事長の伝記を作成しました。取材した関係者は100名以上、行政資料や文献なども多数収集して、B5判・約300ページの本にまとめました。
2. ケンブリッジ大学英語検定機構事務局の設置
グローバル化への取組の一貫で、ケンブリッジ大学英語検定機構の事務局を学園内に設置し、語学教育の充実を図るため、岡山理科大学附属中学校・附属高等学校及び岡山理科大学で一貫性のある教育プログラムの構築を推進しました。現在、附属中学校においては、中高一貫コースの総合学習の時間を利用し、ケンブリッジ英検の授業を展開しています。平成29年度も時間数を増加し継続実施することとしています。

国際交流関係

■教育交流協定校との交流プログラム

本学園は現在、18カ国70校の海外高等教育機関と教育交流協定を締結し、学生、教職員の交換、留学生やインターンシップ生受け入れなど多彩な国際交流プログラムを行っています。

既に四半世紀継続しているアメリカ学生研修団に対して岡山での最終日に岡山理科大学スカイテラスにて「KAKE国際祭り」を開催しました。研修団や地域住民の方々、ホストファミリー、学園関係者など500名以上が参加し、在籍留学生による中国、マレーシア、ベトナム、ネパール、理大ハラルレストランなどの国際屋台が出店しました。

なお、ブラジル学生研修団については、ジカウイルス感染症を考慮し、本年度は見送ることとなりました。

■第六回加計学園杯日本語弁論国際大会

第六回加計学園杯日本語弁論国際大会の地区予選を8～10月に11カ国計15会場にて開催しました。これら予選で選抜された15名の出場者による決勝大会を11月25日（金）に岡山理科大学にて開催しました。約500名の入場者が見守る中、出場者は「テーマ：わたしにとって一番大切なもの」について、熱弁を奮いました。最優秀賞には、中国・上海地区大会優勝者の周琳荟さんが輝きました。



■第七回加計杯日本語弁論大会

学園設置校に在籍している留学生による弁論大会の決勝を11月6日（日）に吉備国際大学にて開催しました。中国、韓国、スリランカ、マレーシア、ベトナム、ブラジルの計6カ国の留学生が出場し、スピーチを行いました。結果、個人での優勝は吉備国際大学のTRAN NGOCNAMさん（ベトナム）、団体では千葉科学大学が優勝しました。

■海外支局長会議

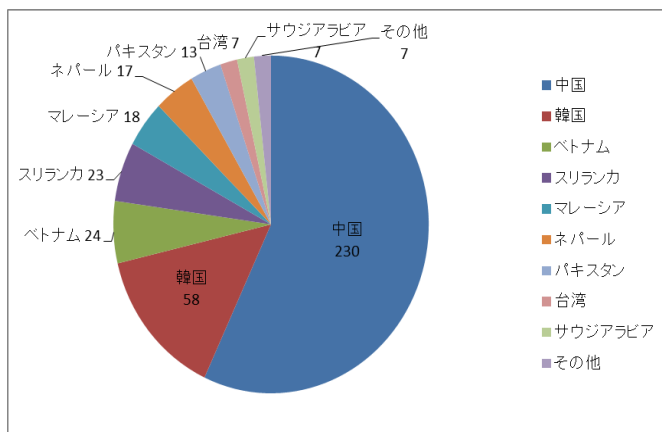
年に数回、海外支局長TV会議を開催し、勉強会・報告会を通じて海外支局長同士の連携を深め、情報交換を行っています。今年度は11月24日に平成28年度秋期海外支局長会議及び海外支局長勉強会を開催しました。

■教育交流協定校との交流プログラム

国名	計 画	実行
アメリカ	受入:ライト大学仕事体験生 2名(岡山理科大学) 受入:フィンドリー大学仕事 体験生2名(千葉科学 大学)	4~3月
台湾	受入:致理技術学院科目等履 修生3名(岡山理科大 学2名・倉敷芸術科学 大学1名)	4~2月
アメリカ	受入:フィンドリー大学学生 訪日研修団9名 受入:ライト大学学生訪日研 修団11名	6/27~ 7/20
台湾	受入:致理技術学院学生研修 団21名	5/25~ 6/2
韓国	受入:慶一学園生徒訪日研修 団30名	7/18~ 7/21
中国	受入:江蘇太倉中学校(高校) 学生訪日研修団28名	6/8~ 6/15
韓国	受入:韓国支局訪日文化研修 団25名	7/25~ 8/3
アメリカ	派遣:フィンドリー大学へ学 生研修団2名	8/11~ 9/6
アメリカ	派遣:ライト大学へ学生研修 団5名	8/11~ 8/3
中国	受入:江蘇省無錫堰橋中学研 修団	1/18~ 1/25
韓国	受入:湖西大学単位互換履修 生2名	9~3月
韓国	受入:全南女子商業高校生徒 研修団	1/16~ 1/18
韓国	受入:木洞高校高校生訪日研 修団	1/10~ 1/13
韓国	受入:正明高校高校生訪日研 修団	2/15~ 2/18
台湾	派遣:致理技術学院へ学生研 修団	3/2~ 3/9

■国別留学生内訳

(平成28年5月1日現在)



総数: 404名(15カ国)

■ 海外交流協定校（平成29年3月31日現在）

国名	教育交流協定校	校数
中国	南開大学、北京科技大学、雲南大学、中山大学、河南科技大学、東北師範大学、東北師範大学人文学院、中国管理軟件学院、北京城市学院、北京市実美職業学校、北京市求实職業学校、黒龍江中医薬大学、安徽外国語学院、河南城建学院	14校
	（留学生募集に関する提携校） 内モンゴル智力引進外語専修学院、北京平成日本語学校、成都瀨川日本語学校、四川外国語学院国際教育学院、西南交通大学外語学院国際項目部、深圳職業技術学院、明正日本語学校、南京卓越日本語専修学院、無錫運河実験中学校、長沙明照日本語専修学院、吉林動画学院、他	(31校)
韓国	慶一学園、金剛学園（永同大学、亨硯高校）、鶴山学園（東ソウル大学）、金龍学園（徳園女子高校、徳園芸術高校）、桂林学園（正明高校）、清錫学園（清州大学）、純心教育財団（純心高校）、湖西学園（湖西大学）、江原大学、金泉大学、大田保健大学、韓国防災協会、全南女子商業高等学校、木洞高校、礼ーデザイン高等学校	15校
台湾	大華技術学院、明新科技大学、南台科技大学、稲江科技暨管理学院、稲江高級商業職業学校、金甌女子高級中学、致理技術学院、海山高級工業職業学校、治平高級中学、財団法人崇右技術学院	10校
アメリカ	ライト大学、ハワイ大学、フィンドリー大学、シェネンドーア大学、グアム大学、ムーアパークカレッジ	6校
イギリス	サンダーランド大学、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学キャベンディッシュ研究所、ダービー大学	4校
スリランカ	ワヤンバ・ロイヤルカレッジ、マリヤデワ・カレッジ、マリヤデワ・バリーカウィッダヤーラヤ、マヒンダ・カレッジ・ゴール	4校
ブラジル	パラナ・カトリカ大学、パラナ連邦大学、バンデイランテス高校	3校
オーストリア	ヨハネス・ケプラー大学、リンツ工科造形芸術大学	2校
シンガポール	ニー・アン・ポリテクニク、シンガポール・ポリテクニク	2校
ベルギー	アントワープ王立美術アカデミー	1校
タイ	泰日工業大学、パトゥムワン・デモンストレーション・スクール、ワライラック大学	3校
フィリピン	フィリピン国立大学ロスバニョス校	1校
フランス	リヨンI大学	1校
カナダ	モホーク大学	1校
コスタリカ	コスタリカナショナル大学	1校
オーストラリア	アニマルインダストリーズリソースセンター	1校
コンゴ民主共和国	高等技術大学	1校
マレーシア	マラ工科大学医学部	1校
モンゴロ	モンゴル科学アカデミー古生物学研究センター	1校
メキシコ	日本メキシコ学院	1校

組織

■組織

法人本部事務局、理事長直轄機関、総長直轄機関について見直しを行い、平成28年度より新たな組織を編成しました。

4月1日付で、新学部設置準備局を新設し、岡山理科大学獣医学部の設置準備に関する業務を行いました。平成28年11月9日に第25回国家戦略特別区域諮問会議において、国家戦略特区における追加の規制改革事項（先端ライフサイエンス研究や地域における感染症対策など、新たなニーズに対応する獣医学部の設置）が決定したことにより、平成29年1月4日～11日の間で広島県・今治市国家戦略特別区域会議の構成員の公募があり、応募書類を提出し受理されました。平成29年1月20日には第3回広島県・今治市国家戦略特別区域会議にて加計学園が事業主体として選定され、同日、第27回国家戦略特別区域諮問会議において広島県・今治市国家戦略特別区域区域計画（獣医師の養成に係る大学設置事業）が内閣総理大臣に認定された事に伴い、平成29年3月31日付けで文部科学省へ加計学園寄附行為変更認可申請書及び岡山理科大学獣医学部設置認可申請書を提出しました。

■加計学園理事・監事・評議員概況

(単位：人)

区分	定数	常勤	非常勤	計
理事	9～13	7	3	10
監事	2		2	2
評議員	23～32	26	3	29

(平成28年5月1日現在)

■役員について

平成28年4月1日：柳澤康信理事就任

平成28年4月1日：木曾 功理事就任

平成28年5月30日：豊田三郎理事就任

平成28年5月30日：加計正弘理事就任

平成28年5月31日：赤木靖春専務理事退任

(理事は継続)

平成28年6月1日：内田修心専務理事就任

平成28年6月1日：北村良人常務理事就任

平成28年6月30日：木澤克之監事退任

平成28年7月12日：川添利賢監事就任

平成29年1月25日：豊田三郎理事退任

平成29年2月15日：大原謙一郎理事退任

学園の概況

■学園の沿革（抜粋）

昭和30年4月	加計学園の出発点ともなった広島英数学館を、加計勉が創立
昭和36年9月	学校法人加計学園設置認可、理事長に加計勉就任、岡山電機工業高等学校設置認可
昭和37年4月	岡山電機工業高等学校開校（全日制、電気科・電子工業科） 初代校長に神崎栄一郎就任
昭和39年1月	岡山理科大学設置認可
昭和39年2月	岡山理科大学設置認可にともない、岡山電機工業高等学校を岡山理科大学附属高等学校に名称変更
昭和39年4月	岡山理科大学開学（理学部応用数学科、化学科） 初代学長に加計勉就任
昭和42年4月	岡山理科大学附属高等学校第2代校長に内藤一人就任
昭和44年12月	真庭郡川上村に岡山理科大学蒜山研究所、蒜山学舎を開設
昭和48年10月	学校法人加計学園の所在地が岡山市の住居表示の変更により、岡山市理大町と町名変更
昭和49年4月	岡山理科大学大学院理学研究科修士課程（化学専攻、応用物理学専攻）を設置
昭和49年4月	岡山理科大学附属高等学校第3代校長に中尾寿夫就任、全寮制特別学級を全寮学級に名称変更
昭和50年4月	岡山高等建築専門学院設置認可
昭和50年5月	岡山高等建築専門学院開校（建築学科夜間部定時制） 初代院長に中尾寿夫就任
昭和51年4月	岡山高等建築専門学院、専修学校法施行により岡山高等建築専門学校に名称変更
昭和53年4月	岡山理科大学大学院理学研究科に博士課程（後期）材質理学専攻を設置
昭和55年4月	岡山理科大学第2代学長に、奥田毅就任
昭和55年4月	岡山理科大学附属高等学校第4代校長に松本卓三就任
昭和55年4月	岡山高等建築専門学校昼間部を増設、第2代校長に片山誠二就任
昭和55年7月	寄附行為変更により総長制度認可、初代総長に加計勉就任
昭和59年4月	岡山理科大学第3代学長に、黒谷寿雄就任
昭和61年4月	岡山理科大学工学部設置
昭和61年4月	岡山理科大学附属高等学校第5代校長に三宅寛就任
昭和61年4月	岡山高等建築専門学校を岡山理科大学専門学校に名称変更
平成2年4月	岡山理科大学第4代学長に、加計勉就任

平成2年4月 岡山理科大学大学院の理学研究科（修士課程 機械理学専攻、電子理学専攻、博士課程 システム科学専攻）を改組し、工学研究科（修士課程機械工学専攻、電子工学専攻、応用化学専攻、博士課程 システム科学専攻）を設置

平成4年1月 岡山理科大学附属高等学校第6代校長に加計晃太郎就任

平成4年4月 岡山理科大学附属高等学校第7代校長に渡辺己巳生就任

平成6年12月 倉敷芸術科学大学設置認可 初代学長に谷口澄夫就任

平成7年4月 倉敷芸術科学大学開学（芸術学部、産業科学技術学部、教養学部）

平成9年4月 岡山理科大学総合情報学部を増設

平成9年12月 玉野看護福祉総合専門学校設置認可

平成10年4月 玉野看護福祉総合専門学校を開校（保健看護学科、介護福祉学科） 初代校長に金政泰弘就任

平成10年4月 岡山理科大学附属高等学校第8代校長に三木輝知就任

平成10年4月 岡山理科大学専門学校第3代校長に村上侑就任

平成11年4月 倉敷芸術科学大学第2代学長に土井章就任

平成11年4月 倉敷芸術科学大学大学院開設（芸術研究科、産業科学技術研究科、人間文化研究科）

平成12年4月 倉敷芸術科学大学教養学部を国際教養学部に変更

平成12年4月 岡山理科大学附属高等学校通信制課程普通科を設置

平成13年1月 学校法人加計学園第2代理事長・総長に加計晃太郎就任

平成13年4月 岡山理科大学大学院修士課程に総合情報研究科（情報科学専攻・シミュレーション物理専攻・生物地球システム専攻・社会情報専攻）設置

平成13年4月 倉敷芸術科学大学大学院芸術研究科に芸術制作表現専攻博士（後期）課程、産業科学技術研究科に計算機科学専攻博士（後期）課程・機能物質化学専攻博士（後期）課程設置

平成13年4月 玉野看護福祉総合専門学校を、玉野総合医療専門学校に変更

平成13年4月 岡山理科大学第5代学長として、山村泰道就任

平成13年9月 岡山理科大学附属中学校設置認可

平成14年4月 倉敷芸術科学大学大学院（通信制）設置

平成14年4月 岡山理科大学附属高等学校第9代校長に北尾正幸就任

平成14年4月 岡山理科大学専門学校第4代校長に逢坂一正就任

平成14年4月 岡山理科大学附属中学校初代校長に善木道雄就任

平成15年4月 倉敷芸術科学大学産業科学技術学部コンピュータ情報学科（通信教育課程）、国際教養学部起業学科（通信教育課程）を設置

平成15年11月 千葉科学大学設置認可

平成16年3月 倉敷芸術科学大学専門学校設置認可

平成16年4月 岡山理科大学第6代学長に宮垣嘉也就任

平成16年4月 倉敷芸術科学大学生命科学部生命科学科、健康科学科を設置

平成16年4月 倉敷芸術科学大学国際教養学部教養学科及び起業学科募集停止

平成16年4月 倉敷芸術科学大学国際教養学部起業学科（通信教育課程）募集停止

平成16年4月 千葉科学大学開学

平成16年4月 千葉科学大学初代学長に平野敏右就任

平成16年4月 倉敷芸術科学大学専門学校開校

平成16年4月 倉敷芸術科学大学専門学校初代校長に岡本繁通就任

平成17年4月 倉敷芸術科学大学第3代学長に添田喬就任

平成17年4月 岡山理科大学附属高等学校第10代校長に橋爪道彦就任

平成17年4月 岡山理科大学附属中学校第2代校長に新倉正和就任

平成17年4月 岡山理科大学専門学校第5代校長に圓堂稔就任

平成17年4月 玉野総合医療専門学校第2代校長に岡田茂就任

平成19年4月 倉敷芸術科学大学専門学校第2代校長に伊藤敏夫就任

平成20年4月 千葉科学大学大学院薬科学研究科、危機管理学研究科設置

平成20年4月 倉敷芸術科学大学専門学校を倉敷 食と器 専門学校に名称変更

平成20年4月 岡山理科大学第7代学長に波田善夫就任

平成21年4月 岡山理科大学専門学校第6代校長に小林正文就任

平成22年3月 倉敷芸術科学大学国際教養学部（教養学科、起業学科、起業学科（通信教育課程））を廃止

平成22年4月 千葉科学大学大学院薬科学研究科博士課程（後期）、危機管理学研究科博士課程（後期）設置

平成22年4月 千葉科学大学第2代学長に赤木靖春就任

平成22年4月 玉野総合医療専門学校第3代校長に高井研一就任

平成22年4月 倉敷 食と器 専門学校第3代校長に川上雅之就任

平成23年4月 倉敷 食と器 専門学校第4代校長に亀井秀人就任

平成23年10月 倉敷芸術科学大学第4代学長に唐木英明就任

平成24年4月 岡山理科大学生物地球学部設置

平成24年4月 岡山理科大学総合情報学部生物地球システム学科募集停止

平成24年4月 千葉科学大学大学院薬科学研究科を薬学研究科に名称変更、薬学科（6年制）を基礎とした薬学専攻博士課程（4年制一貫）を設置

平成24年4月 千葉科学大学危機管理学部に環境危機管理学科及び動物危機管理学科を設置

平成24年4月 岡山理科大学附属高等学校第11代校長に宮垣嘉也就任

平成24年4月 岡山理科大学附属中学校第3代校長に位田隆久就任

平成24年4月 岡山理科大学専門学校第7代校長に村岡正就任

平成24年4月 倉敷芸術科学大学別科に調理師別科、製菓衛生師別科設置

平成25年3月 倉敷 食と器 専門学校閉校

平成26年4月 倉敷芸術科学大学別科 調理師別科、製菓衛生師別科募集停止

平成26年4月 千葉科学大学看護学部設置

平成26年4月 認可外保育所 御影インターナショナルこども園 開園
平成26年4月 倉敷芸術科学大学第5代学長に土井章就任
平成27年4月 倉敷芸術科学大学第6代学長に河野伊一郎就任
平成27年4月 岡山理科大学附属中学校第4代校長に河村定彦就任
平成27年4月 玉野総合医療専門学校第4代校長に平井義一就任
平成28年4月 岡山理科大学第8代学長に柳澤康信就任
平成28年4月 岡山理科大学教育学部初等教育学科、中等教育学科を設置
平成28年4月 千葉科学大学第3代学長に木曾功就任
平成28年4月 岡山理科大学附属高等学校第12代校長に洲脇史朗就任

■設置校概況

平成28年5月1日現在
(単位：人)

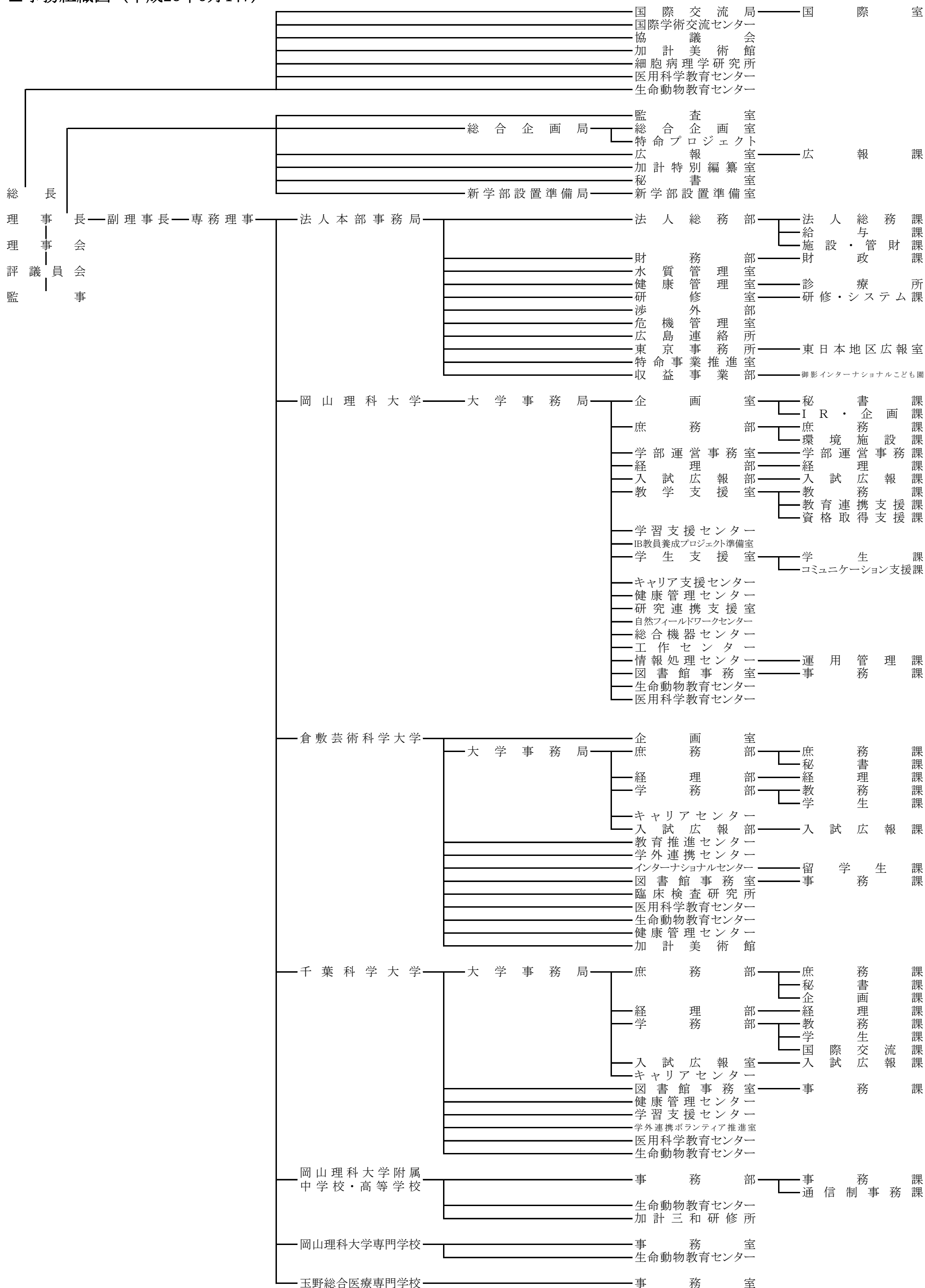
区 分	合計		教員	職員	計
	定員	現員			
岡山理科大学大学 (岡山市北区理大町1-1)	5,709	6,218	288	214	502
大学院	389	207		101 (本部) 113 (理大)	
理学研究科	191	111			
工学研究科	147	69			
総合情報研究科	39	22			
生物地球科学研究科	12	5			
学部	5,320	6,011			
理学部	2,080	2,340			
工学部	2,010	2,264			
総合情報学部	640	747			
生物地球学部	460	523			
教育学部	130	137			
倉敷芸術科学大学 (倉敷市連島町西之浦2640)	2,027	1,405	91	63	154
大学院	116	20			
芸術研究科	42	7			
産業科学技術研究科	44	7			
人間文化研究科	30	6			
学部	1,791	1,380			
芸術学部	424	325			
産業科学技術学部	383	150			
生命科学部	984	905			
大学院 (通信制)	120	5			
芸術研究科 修士課程	20	2			
産業科学技術研究科 修士課程	40	0			
人間文化研究科 修士課程	60	3			
千葉科学大学 (千葉県銚子市潮見町3)	2,386	1,957	139	52	191
大学院	66	27			
薬学研究科	47	8			
危機管理学研究科	19	19			
学部	2,320	1,930			
薬学部	880	740			
危機管理学部	1,200	916			
看護学部	240	274			
岡山理科大学附属高等学校	2,100	1,282	69	16	85
全日制	1,500	1,092			
通信制(1~3年定員:600名)	600	190			
岡山理科大学附属中学校	240	151	14		14
岡山理科大学専門学校	490	372	13	12	25
工業専門課程(建築)	120	135			
商業実務専門課程(映像情報)	0	0			
文化・教養専門課程 (動物看護, トリミング, トッグ, アグ)	370	237			
玉野総合医療専門学校	560	431	32	8	40
医療専門課程(保健看護、理学療法、作業療法)	480	397			
教育・社会福祉専門課程(介護福祉)	80	34			
合 計	13,512	11,816	646	365	1,011

※別科、専攻科等除く

学校法人 加計学園 法人本部	収容定員	在園者数		こども園 教職員	
収益事業 (御影インターナショナルこども園)	196	77		(5)	

()は本部職員内数

■事務組織図（平成28年5月1日）



財務関係

■資金収支計算書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

収入の部 (単位：円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	15,617,738,938
手数料収入	286,691,372
寄付金収入	489,416,418
補助金収入	1,919,922,928
資産売却収入	780,000
付随事業・収益事業収入	186,965,180
受取利息・配当金収入	49,883,379
雑収入	533,704,923
借入金等収入	2,702,040,000
前受金収入	2,242,468,350
その他の収入	2,316,577,262
資金収入調整勘定	△ 2,799,960,524
前年度繰越支払資金	19,401,012,024
計	42,947,240,250

支出の部 (単位：円)

科 目	金 額
人件費支出	11,344,557,711
教育研究経費支出	3,954,688,239
管理経費支出	1,485,334,693
借入金等利息支出	73,069,862
借入金等返済支出	2,894,685,000
施設関係支出	995,202,370
設備関係支出	678,943,299
資産運用支出	994,402,218
その他の支出	1,660,706,468
資金支出調整勘定	△ 421,987,579
翌年度繰越支払資金	19,287,637,969
計	42,947,240,250

■事業活動収支計算書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(単位：円)

科 目		金 額
教育活動収入	学生生徒等納付金	15,617,738,938
	経常費等補助金	1,871,535,928
	その他収入	1,469,405,695
	計	18,958,680,561
教育活動支出	人件費	11,389,036,569
	教育研究経費	5,588,438,280
	管理経費	1,884,350,428
	その他支出	2,338,618
	計	18,864,163,895
教育活動収支差額		94,516,666
教育活動外	受取利息等	49,883,379
	借入金利息等	73,069,862
教育活動外収支差額		△ 23,186,483
経常収支差額		71,330,183
特別	その他の特別収入等	3,774,659,648
	資産処分差額等	227,593,939
特別収支差額		3,547,065,709

基本金組入前当年度収支差額	3,618,395,892
基本金組入額合計	△ 4,667,307,856
当年度収支差額	△ 1,048,911,964
前年度繰越収支差額	△ 13,943,141,123
基本金取崩額	69,000,000
翌年度繰越収支差額	△ 14,923,053,087

■貸借対照表（平成29年3月31日）

資産の部		(単位：円)
科 目	金 額	
固定資産	68,734,314,394	
有形固定資産	62,748,783,846	
特定資産	4,019,236,052	
その他の固定資産	1,966,294,496	
流動資産	21,370,263,280	
資産の部合計	90,104,577,674	

負債の部		(単位：円)
科 目	金 額	
固定負債	14,774,281,639	
流動負債	5,508,090,867	
負債の部合計	20,282,372,506	

純資産の部		(単位：円)
科 目	金 額	
基本金	84,745,258,255	
繰越収支差額	△ 14,923,053,087	
純資産の部合計	69,822,205,168	
科 目	金 額	
負債及び純資産の部合計	90,104,577,674	

■財産目録（平成29年3月31日）

一資産額		(単位：円)
科 目	金 額	
(一) 基本財産	67,262,582,782	
1. 土地	19,540,488,587	
借地権	388,140,000	
2. 建物	31,778,523,187	
(1)校舎	26,466,828,536	
(2)図書館	565,351,109	
(3)体育館	2,069,751,356	
(4)寄宿舎	322,559,789	
(5)倉庫	18,047,016	
(6)その他	2,335,985,381	
3. 建設仮勘定	159,024,000	
4. 構築物	1,102,184,308	
5. 図書	6,918,704,790	
6. 教具・校具・備品	3,226,293,863	
7. ソフトウェア	106,422,884	
8. 車両運搬具・船舶舟艇	23,565,111	
9. 特定資産	4,019,236,052	
(二) 運用財産	22,841,994,892	
1. 預金、現金	19,287,637,969	
2. 出資金	158,859,400	
3. 有価証券	1,393,681,477	
4. 未収入金	553,186,463	
5. 仮払金	12,894,999	
6. 差入保証金	99,903,170	
7. 前払金	120,981,137	
8. 貯蔵品	1,881,235	
9. 収益事業元入金	866,969,042	
10. 長期貸付金	346,000,000	
合 計	90,104,577,674	
二負債額		
1. 固定負債	14,774,281,639	
(1)長期借入金	10,128,832,000	
(2)学校債	3,310,000	
(3)長期未払金	791,112,390	
(4)退職給与引当金	3,851,027,249	
2. 流動負債	5,508,090,867	
(1)短期借入金	1,581,830,000	
(2)学校債	730,000	
(3)未払金	1,049,471,014	
(4)前受金	2,242,468,350	
(5)預り金	586,735,721	
(6)仮受金	46,855,782	
合 計	20,282,372,506	

■財務比率

事業活動収支計算書（平成26年度までは消費収支計算書）及び貸借対照表に基づく財務比率について、下表で本学園の経年比率を示した。

区 分			24年度	25年度	26年度	区 分			27年度	28年度
分類	比 率	算式（×100）				分類	比 率	算式（×100）		
貸借対照表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	△17.0%	△18.3%	△17.1%	貸借対照表	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債＋純資産}}$	△16.0%	△16.6%
	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	89.8%	89.8%	88.7%		基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	85.9%	87.3%
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	89.7%	91.0%	94.1%		固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	99.3%	98.4%
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金＋固定負債}}$	75.6%	77.3%	78.2%		固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産＋固定負債}}$	80.2%	81.2%
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	542.8%	473.7%	528.3%		流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	405.9%	388.0%
	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	917.2%	830.3%	803.7%		前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	865.2%	860.1%
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	20.1%	19.9%	21.0%		総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	24.1%	22.5%
	負債率	$\frac{\text{総負債－前受金}}{\text{総資産}}$	17.3%	16.9%	18.1%		負債率	$\frac{\text{総負債－前受金}}{\text{総資産}}$	21.3%	20.0%
	基本金実質組入率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{基本金要組入額}}$	74.0%	73.1%	72.9%		基本金実質組入率	$\frac{\text{純資産}}{\text{基本金要組入額}}$	70.9%	71.9%
消費費収支計算書	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	58.2%	59.7%	57.8%	事業活動収支計算書	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	60.3%	59.9%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	28.8%	29.3%	27.8%		教育研究経費構成比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{事業活動支出}}$	28.2%	29.2%
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	8.6%	9.5%	10.8%		管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	9.0%	9.9%
	消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	96.6%	100.6%	97.5%		事業活動支出比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}$	97.7%	84.1%
	経常経費依存率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{学生生徒等納付金}}$	120.6%	124.8%	123.4%		経常経費依存率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{学生生徒等納付金}}$	119.7%	122.7%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	80.1%	80.6%	79.0%		学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	81.8%	82.2%
	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	0.4%	0.5%	2.4%		寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.6%	18.5%
	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	13.5%	11.6%	12.1%		補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	9.3%	8.4%
	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	7.4%	4.4%	0.7%		基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	2.5%	20.5%

■国庫補助金等

設置校名	①	②	③	(単位：千円)		
	経常費補助金	大型機器補助金	G P等選定事業	その他国庫補助金	地方公共団体補助金	合計
岡山理科大学	805,120	36,613	2,500	10,380	548	855,161
倉敷芸術科学大学	263,206		12,692		121	276,019
千葉科学大学	364,583		6,207		311	371,101
岡山理科大学附属高等学校				4,783	322,845	327,628
岡山理科大学附属中学校					62,528	62,528
岡山理科大学専門学校					257	257
玉野総合医療専門学校					27,228	27,228
合計	1,432,909	36,613	21,399	15,163	413,838	1,919,922

①経常費補助金・・・私立大学等経常費補助金（一般補助、特別補助）

②大型機器補助金・・・私立学校施設整備費補助金（私立学校教育研究装置等施設整備費（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費））及び私立大学等研究設備整備費補助金（私立大学等研究設備等整備費）

③G P等選定事業・・・大学改革推進等補助金（戦略G P、教育G P等）、科学技術総合推進費補助金等、文部科学省が選定し、支援を行う補助事業

■受託研究・共同研究・科学研究費補助金

設置校等名	受託研究	共同研究	科学研究費補助金	
			件数	補助金額
岡山理科大学	22 件	56 件	62 件	96,630 千円
理学部	4	14	28	35,530
工学部	9	26	14	26,130
総合情報学部	0	2	6	7,670
生物地球学部	5	4	8	12,350
教育学部	1	0	1	1,820
附属施設	3	10	3	6,240
その他	0	0	2	6,890
倉敷芸術科学大学	7	5	5	6,110
芸術学部	4	1	2	2,340
産業科学技術学部	1	2	1	1,820
生命科学部	2	2	2	1,950
千葉科学大学	6	5	30	28,105
薬学部	1	4	9	12,415
危機管理学部	5	1	12	10,660
看護学部	0	0	9	5,030
合計	35	66	97	130,845

平成28年度 事業報告

岡山理科大学

岡山理科大学は、「個性的で魅力ある研究」とそれに立脚した「充実した教育」を通して、学生ひとりひとりが持つ能力を最大限に引き出し、地域社会・産業社会の要請に合った人材を育成します。



今年4月に、本学5番目の学部である教育学部が発足しました。教育学部は初等教育学科、中等教育学科の2学科から構成され、「子どもたちと学ぶ楽しさを分かち合い、人間としての成長を支え、未来を築く力を育む教育」を目指します。

また、創立50周年記念事業として建設中であったA1号館（地下1階、地上11階）が今年3月に竣工しました。A1号館は「積極的な学び」「学生の満足度向上」をコンセプトとしており、教育研究環境、自主学習機能、図書館機能を大幅に向上させるものです。この新しい学部・建物を順調に始動させることが本年度の課題のひとつです。

これまで本学の中核を担ってきた第二世代教員の大量退職期を迎え、また本年度大学執行部が交代しました。この機会に、時代の要請に合った活力のある教育研究体制を構築するため、以下の事業方針を掲げます。

1. 明確なビジョンの提示と共有

「建学の理念」に沿って、本学の方針・目標を体系的・階層的に成文化し、組織全体として進むべき方向性を一致させる。

2. 教育研究組織および事務組織の改変

全学の教育研究組織を3つの機構（教育支援機構、学生支援機構、研究推進機構）に集約すると同時に、事務組織も改変して教職協働の体制を整える。

3. 学生の主体的・協同的学びの推進

アクティブラーニングやPBLを積極的に導入し、学生の主体性・協調性を涵養する。また、新規導入の4学期制のメリットを活かして、長期学外学修プログラムを推進する。

4. 学生の個性や資質に応じた支援の強化

入学から卒業まで充実した大学生活を送ること

ができるよう、学生の個性や資質に応じた種々の支援を行うとともに、正課教育・正課外活動で多様な体験ができるプログラムを開発する。

5. グローバル化に対応した人材の育成

学生の海外派遣プログラムを充実させると共に、新設のグローバル教育センターを中心に、国際バカロレア(IB)教員養成などグローバル化に対応した人材の育成を推進する。

6. 特色ある研究の重点化・拠点化

社会的要請のある課題に対してプロジェクトチームを編成して取り組むとともに、優れた研究グループの重点化・拠点化を図る。また、これを促進するため人的・物的資源を弾力的に配分できる制度を導入する。

7. 教員の業務全般にわたる支援体制の構築

教員の能力開発、海外派遣制度の強化、機構専任教員やアカデミック・アドミニストレーターの配置などによって、教員が業務（教育・研究・社会貢献・管理運営）を効果的・効率的に遂行できる体制を整備する。

8. 職員の力量を向上させる取り組みの強化

目指すべき職員像を明確にして、職員の能力開発システムの高度化を図り、経営や教学運営に中核的に参画できる企画提案型の人材を育成する。

9. IR (Institutional Research) の推進

学内データを体系的に整備し、それを効果的に検証、活用しながら業務を進め、大学全体として内部質保証システムを機能させる。

10. ブランディング戦略の推進

元来の強みである「個性的で魅力ある研究」「充実した教育」を前面に押し出しつつ広報活動を展開して、本学のブランド・イメージを向上させる。

岡山理科大学 学長 柳澤 康信

設置・改組

■教育研究組織の新設

1. 教育学部

岡山理科大学5番目の学部として教育学部を開設しました。初年度として、「探究する力」、「言葉の力」を核とする教員養成の理念を教職員で共有し、学部の組織基盤を固めました。特に1年次からの課題探求型の授業や体験を重視した学外活動により、学生自身に目的意識を持たせ、目指す教師像の自覚を促す指導を行いました。教育課程、教育環境整備等、設置申請時の計画を確実に履行し、本学の特色を活かした教育学部として始動しています。

2. 理学部応用物理学科臨床工学専攻

応用物理学科医用科学専攻を応用物理学科臨床工学専攻に名称変更して、臨床工学技士の国家資格取得を目指す専攻であることを明確にしました。

3. 大学院生物地球科学研究科生物地球科学専攻

平成27年度に完成年度を迎えた生物地球学部生物地球学科を基礎として、本年度、大学院生物地球科学研究科を開設しました。学際領域とフィールドサイエンスを中心とした教育研究を通して、幅広い知識を持ち、主体的に社会で活躍できる人材の養成を目指します。

また、総合情報研究科生物地球システム専攻の募集を停止しました。

■平成29年度の設置計画及び収容定員増

1. 経営学部

平成29年度に総合情報学部社会情報学科を改組し、新たに経営学部経営学科を開設します。経営学科は、マネジメント能力を基盤として、学生が自らの可能性に挑戦し、深い教養や専門知識を身につけ、総合的な判断力を養い、企業や自治体等の組織を変革する能力を備え、経営を担える企画提案型の人材を養成することを目的としています。設置に必要な教員組織、教育課程、図書等の整備計画をまとめ、平成28年4月、文部科学省に設置の届出を行いました。併せて、入学定員を130名にするため、平

成28年3月に収容定員増の認可申請を行い、6月の収容定員増の認可と共に設置届出が受理されました。これにより平成29年4月に総合情報学部社会情報学科の募集を停止します。

2. 総合情報学部情報科学科ビッグデータコース

総合情報学部社会情報学科の改組に伴い、総合情報学部は平成29年度より情報科学科一学科体制となります。教育研究上の特色を一層明確化し、高度情報化社会のニーズに対応するため、ビッグデータコースを新設し、20名の入学定員増が認可されました。

3. 収容定員増

上記1、2による定員増のほか、本学の教育によって社会に有為な人材をより多く輩出し、社会貢献を図ることを趣旨として、理学部（応用数学科、化学科、応用物理学科物理科学専攻、基礎理学科、生物化学科、臨床生命科学科、動物学科）、工学部（バイオ・応用化学科、機械システム工学科、情報工学科、建築学科）、生物地球学部（生物地球学科）において、平成29年度より入学定員増を行います。平成28年3月に学則変更認可申請書類を提出し、6月に認可となりました。これにより平成29年度から大学全体で185名の入学定員増となります。

4. 理学部臨床生命科学科基礎医科学コース

（食科学コースからの名称変更）

理学部臨床生命科学科食科学コースは、予防医学の観点から食と健康の関連性について学ぶコースですが、今後、基礎医科学および広汎な生命科学に関する専門的知識を備え、医療分野・医学関連分野で活躍できる人材のニーズが一層高まることが予想されることから、平成29年度よりコース名を「基礎医科学コース」へ変更します。

教育の充実

■教育改革の推進

建学の理念と教育の目的のもと、社会で活躍し得る主体的かつ協調的に行動する人材を育成すべく、教育改革会議を中心に、次の教育改革に向けて議論

を開始しました。

- (1) 本年度から導入する4学期制の特長を活かし教育効果を高めるため、アカデミックカレンダーや時間割、科目配置、学科カリキュラムの適正化、ギャップイヤー（必修科目を配置しない学期）を活用する長期学外学修プログラムの整備を進めました。
- (2) グローバルスタンダードの認証を受けた教育プログラム整備のため、機械システム工学科においてJABEEの認定を受審しました。
- (3) 本年度設置の教育学部及び平成29年度設置の経営学部に対応して、教養教育科目に「身近な化学」「身近な物理学」「現代人の科学」などの科学リテラシーに関わる科目を開講するとともに、授業内容の充実に努めました。また「入門数学」「入門化学」などのリメディアル科目については、授業内容・形態・方法などの改革を行い、「リメディアル講座」として正課外教育に位置づけました。
- (4) 初年次教育をより充実させるために、フレッシュマンセミナーを全学科で導入しました。これを基礎として、1年次からのキャリア教育科目、2年次以後の長期学外学修プログラム、留学、インターンシップ、コーオプ（coop）教育、卒業研究へと続くキャリア形成教育を展開して行きます。入学から卒業・就職に至るまでのキャリア形成教育の充実を図るため、キャリア形成委員会を置くとともに、新たにキャリア支援センターに専任教員を配置しました。
- (5) 学生の能動的学修と授業時間外の学修を促し単位の実質化を図るため、学習支援システム（LMS）を導入しました。

■ポートフォリオシステムの構築

ポートフォリオシステム（Mylog）の運用を開始しました。今後は、入学時から卒業するまでの学生ひとり一人の学修に関する記録を学期ごとに蓄積し、学習支援システムとの連携により、「大学で、いつ、何を学んだか」「そのときにどのように行動し、どのように考えてきたか」などを記録することで、自分自身の学びと成長の軌跡と成果を振り返るためのツールとしていきます。

■教育改革活動の支援と教育開発センターの設置

優れた教育改革活動を支援するため、学長裁量経費による学内公募型の「岡山理科大学教育改革促進事業」を発足し、第1期には個人課題2件とグループ課題5件を、第2期には個人課題1件とグループ課題1件を採択しました。平成28年度以降、多くの新採用教員を迎えており、教員の教育力開発のため、初任教員研修を行いました。また、FDを推進し、主体的学修を促す授業法開発などの教育改革支援を担う教育開発センターを設置しました。

■ワインに関する授業科目の開講

平成29年度よりワイン発酵科学センターを設置し、ワインプロジェクトプログラムを設けることになりました。プログラムではブドウ・ワインをテーマとする講義科目と地域連携PBL（課題解決型教育）科目を開講します。

■大学院教育の充実

大学院各研究科における学位授与、教育課程編成・実施及び入学者受け入れの方針を明文化し、大学院構成員に周知しました。また、大学院生の研究能力を向上させるために、外国語教育の強化、学術論文の作成及び国内外の学会発表に対する補助体制の整備について検討しました。修了後の進路選択に関係するキャリア教育に関しては、キャリア支援センターと連携して充実させていきます。

研究意欲のある学部生の大学院への進学を促すため、大学院の一部の授業を学部生が履修できる早期履修制度を導入し、実施しました。

研究の充実

■特色ある研究の重点化・拠点化

研究活動を活発化させ、優れた研究グループの重点化・拠点化を目指しました。特に、社会的要請のある課題解決や学外の競争的資金を獲得するためのスタートアップとなる研究を支援しました。これら研究活動の活性化支援のため、学長裁量経費による

学内公募型の「岡山理科大学プロジェクト研究推進事業」を発足させました。

■研究所およびセンターの整備

1. 研究推進機構の設置

研究の統括的組織として研究推進機構を設置すると共に、同機構内に研究所やセンターを配置しました。新設の研究連携支援センターは、各研究所及びセンターと密接に連携し、研究活動の活性化を図りました。

2. ワイン発酵科学センターの新設

平成29年度にワイン発酵科学センターを新設するための準備を進めました。岡山県内における産学官でのワイン醸造による地域振興の研究拠点形成を目指しました。教育研究の推進のため、本学・新見市・tetta株式会社との連携協定を締結しました。

3. 大型機器の有効利用

総合機器センターが管理している大型機器、戦略事業等で購入した機器、各研究室所有の機器をより有効に全学的に利用できるよう平成29年度に向けて体制を再構築しました。

■教員の海外派遣制度の充実

本学教員の海外研究機関等での研究活動を積極的に支援し、国際的な視野を持った人材の育成を目指しました。4学期制の導入に伴い、教員が担当授業のない学期（あるいは少ない学期）を利用して海外での留学や研究活動ができる制度について今後整備を行います。

■外部資金の獲得

科学研究費助成事業等の競争的研究費、共同研究や受託研究等の外部研究資金に関する確かつ迅速に情報を収集すると共に学内で説明会等を開催し、外部資金獲得の拡大に努めました。

また、ブラッシュアップ制度を導入し、原則科研費全ての計画調書に対しブラッシュアップを行うことで、採択率を向上させる体制を構築しました。

1. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

平成24年度に工学研究科で採択された「QOL

向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成」が、補助期間5年計画の最終年度となります。生活支援機器や環境改善によりQOL (Quality of life:生活の質)を向上させるための支援技術に関する2つのテーマに取り組みました。

テーマ1：生活支援機器によるQOLの向上

テーマ2：環境改善によるQOLの向上

研究者：15名

代表者：工学研究科 教授 山田訓

2. 私立大学研究ブランディング事業

本学の研究の独自色を大きく打ち出すため、優れた研究課題を選定し、文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に申請し、採択されました。

事業名：恐竜研究の国際的な拠点形成ーモンゴル科学アカデミーとの協定に基づくブランディングー

事業期間：5年

3. 知的財産

(1) 研究者の発明を知的財産化することを目指し、職務発明委員会等を通じて職務発明の発掘に努めました。今年度は、全部で20件について職務発明委員会を開催し、18件の発明届がありました。うち、2件については、成果有体物提供に関する審議もおこなわれました。

(2) 特許セミナーを年4回開催し、研究者および学生が研究した成果の知的財産化を推進しました。

教職員向け 第1回 7月28日

学生向け 第1回 11月18日

第2回 11月25日

第3回 12月 2日

■研究倫理に関する取組

研究活動における不正行為防止及び研究費の不正使用防止に関して、平成27年度よりすべての研究者を対象とした研修会参加またはCITI Japanプログラム（研究者育成の為の行動規範教育の標準化と教育システムの全国展開）のeラーニング受講を義務化しました。また本年度、新入生対象のフレッシュマンセミナーで研究倫理教育を実施しました。

学生支援

■正課外教育プログラムの開発・充実化

学生のひとり一人の成長を促すため、正課教育と有機的に繋がる正課外教育の開発を進めました。具体的には、A1号館のワークセンター（サイエンス・ドリーム・ラボ）、スチューデント・コモنز、ラーニングコモنز、プレゼンテーションルーム等を積極的に活用したプログラムとして、科学ボランティア、学生フォーミュラを充実させるとともに、新たなプログラムの検討を進めました。

■正課・正課外教育に関するデータの集約と分析

入試広報センター、IRセンター及び学生支援センターが連携し、入学から卒業後まで組織的に学生の実態把握に努め、各種アンケート調査、テスト等を活用したデータの集約、分析を行う手法について検討を進めました。

■多様な学生への支援充実

1. 障がい学生支援

障がい学生への修学支援体制を充実させるために、コミュニケーション支援課を新設しました。ここに専門スタッフを配置し、障がい学生ひとり一人に合わせた支援方法の指導を教職員に対して行い、健康管理センターと連携して学生の支援にあたりました。また、障がい者差別解消法を踏まえた障がい学生受入体制を整えました。

2. 経済的に修学困難な学生への支援

奨学金等の情報提供を通して、経済的な事情により修学困難な学生をサポートしました。

3. 留学生支援

日本語や日本文化を学び、日本の習慣に慣れるよう生活面の支援や福利厚生面の整備を行いました。

4. 成績不振者への対応

春学期末と秋学期末の成績不振者を対象に修学相談期間を設け、各チューターがこれら学生に対して面談を行いました。

秋学期のはじめには学生と保護者に対し「教育進

路懇談会」を本学と地方に会場を分けて実施し、秋学期末には1年次生とその保護者を対象に「修学相談会」を本学で実施しました。

5. ハラスメント対応

多様な学生や人間関係の変化により、近年、学生指導は複雑化しています。全学的にハラスメント防止に向けた研修を行い、新入生にはフレッシュマンセミナーでハラスメント防止体制等の説明を行いました。

■進路支援

1. セミナー、講座等の充実

就職進路ガイダンス・各種セミナーをより充実し、合同企業説明会・就職懇談会を開催しました。採用選考開始時期が6月に変更となるため、業種別等の企業説明会を4月から多数開催しました。また、各年次に応じた内容の就職支援雑誌を配布し、就職意識の充実・向上を図りました。就職活動において保護者の果たす役割が増えているため、その対策として保護者向けパンフレット「保護者のための就職支援ブック」の内容を一新・充実させ、配布しました。

新たな取り組みとして公務員対策講座を1・2年次生（従来は3年次生対象のみ）にも開講し、公務員合格者倍増計画の達成を目指しました。任意に行っていた1年次生対象就職適性検査はフレッシュマンセミナーの時間を利用して全員に受検させることにし、3年次生には就職適性検査キャリアアプローチを全員受検させ、この2つの結果を連動分析し、IR戦略化を図りました。

また、学生の就職への意欲を持たせるため、10月15、16日に、金融・IT・食品・化学など各業界からの担当者を招き、業界研究ワークショップを行い、約50名の学生が参加しました。

2. インターンシップの拡充

インターンシップは昨年度からキャリアセンターの担当業務となりました。今年度の参加決定学生は、10月5日現在で215名（昨年最終211名）となり、さらなる充実を図るため2年次生の増加を目指しました。学生の便宜を図るため、学内インターンシップの実施可能な部署を増やしました。また、成果の共有とプレゼンテーション能力の育成を図る

ため、インターンシップ実施後の発表会を充実させました。

コーオペ教育は進化型インターンシップとして大学が主導して管理運営を行うもので、長期にわたる課題を企業等と連携して体験させることです。学生自らが考える力や就業力の向上を図れるよう、来年度に向けた新たな科目の開設・先進的な大学や企業の調査に取り組みました。また、平成29年度開設の経営学部との協働にも取り組みました。

■図書館施設の充実

A1号館の図書館施設に自学自習の場として「ラーニングコモンズ」や憩いの場として「図書館ラウンジ」を整備しました。また、A1号館図書館の新設に伴いA2号館（第11号館）図書館の改修工事と老朽化した10号館図書館の取り壊しによる統廃合を行い、同時に利用者の利便性を考慮した図書配置の整備を行いました。

グローバル化への対応

■教育改革とグローバル化

グローバル化に対応した教育改革として、本年度から4学期制を導入し、語学教育を充実させました。卒業に必要な語学教育の科目数を従来の6科目から10科目に増やすと共にネイティブ英語教員を2名増員しました。

4学期制によりギャップイヤーの設置が可能となり、学生はこの期間を利用して海外留学や海外インターンシップなどに参加できます。このような長期学外学修プログラムに参加する経費の一部を補助する「岡理GAP」活動支援の補助制度を新設し、第1期には5件の課題を、第2期には1件の課題を採択しました。

■海外協定校との連携強化

すべての学生が卒業するまでに一度は海外での勉学や生活を体験することを目標とし、留学・研修やサマースクール参加者を増やすために、既存の海外協定校との連携強化や新たな協定校の開拓などを行

いました。今後は、アジア（ミャンマー、マレーシア、韓国、台湾、フィリピン、オーストラリア等）を中心に重点国を定め交流を強化する計画です。まずグアム大学との連携を強化するためグアム大学研修プログラムを企画し実施しました。

■グローバル教育センターの新設

グローバル教育センターを新設しました。このセンターは平成29年度に開設する国際バカロレア（IB）教員養成プロジェクトを運営するセンターとなります。IB教員養成コースは5月に現地視察を受け、8月23日付で認可されました。またセンターの将来構想を前倒して学生の海外留学やグローバル教育支援の拠点づくりの整備を行いました。

■キャンパスのグローバル化

留学生・外国人教員・日本人学生・教員が外国語で交流するためのスペースとして、A1号館や25号館でのインターナショナルカフェの開設を検討しました。また、既存の英語カフェの強化、学外学修プログラム体験報告会、本学での国際会議やシンポジウムの開催などを促進しました。

社会連携・社会貢献

■行政機関との協定や大学間交流

平成27年8月、本学を含む大学コンソーシアム岡山（本学に事務局を継続設置）の加盟校は、地域の発展に向けた連携及び協力の強化を図るために、岡山県と包括連携協定を締結しました。本年度は、県・大学PR事業や、G7倉敷教育大臣会合に合わせた教育イノベーションシンポジウムなどを実施しました。

本学は大学コンソーシアム岡山の有力加盟校として、大学教育事業部、社会人教育事業部、産学官連携事業部の活動を通じて岡山の活性化に貢献しました。

■公開講座の実施

本学は開かれた大学として、広く地域社会及び地域住民の生涯学習に貢献すべく、大学コンソーシアム岡山と山陽新聞社が共催開講している「吉備創生カレッジ」において公開講座を提供しました。本年度は春学期に「耕さない教育と数学教育」「現代アメリカ」「コンピュータの処理のしくみ」「さわって学ぶ恐竜と化石」の4講座を、秋学期に「原子の眼で見る粒子線治療」「振動モータ付き移動ロボット」「改めて魏志倭人伝を読む」「カメと人間の世界そして日本」「漢詩を『書き込み』で読む」の5講座を開講しました。また、生物学や地球科学等に関する最新のトピックスを紹介する生地談話会を開催しました。

■地域活動への参画

1. 研究成果の社会への発信

「OUSフォーラム2016」を11月11日（金）に岡山市内で開催しました。今年で16回目を迎え、著名な講師を招聘し、講演会や本学研究者のシーズ発表等（92件）を行いました。11月1日（火）のJST科学技術振興機構「新技術説明会」（東京）で2件のシーズ発表を行いました。「岡山リサーチパーク研究・展示発表会」（岡山）においても、研究シーズの発表をしました。また、OUS研究者ナビゲータをWEBにアップし、本学の研究活動内容を積極的に学外に発信するとともに、平成29年度に向けて「OUS研究者ナビゲータ」冊子の日本語版を更新しました。

2. 「COC+」事業への参加

文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に選定された「地域で学び地域で未来を拓く‘生き生きおかやま’」人材育成事業（代表校：岡山県立大学、構成：県内8大学や自治体など29機関、期間：平成27年度から5年間）の参加校として、地域指向型科目の学習教材・教育システムの開発や県内就職率の向上に協力しました。

教育研究環境

■施設の充実

教育研究環境充実の中核となるA1号館の完成を受け、本年度は、第一学舎、第1号館、第2号館、第10号館の取り壊しと、A1号館周辺の道路整備を行いました。

第一学舎跡地は、学生の憩いの場とするため、芝生広場として整備しました。

学生の受入

■ブランディング戦略

「理大の研究力」「科学のおもしろさ」を前面に押し出しつつ広報活動を展開し、本学ブランド・イメージの向上を図りました。

また、「私立大学研究ブランディング事業」や「IB教員養成コース」などにより、本学のミッション・ポリシーを広く知らしめました。

■募集広報

平成29年度新設予定の経営学部の広報活動を重点的に展開しました。SNSなどを利用しエリア対策広報を実施し、その効果を検証しました。

■入試日程の変更

2017年度入試より、文系入試の導入に伴い、試験時間を変更しました。また、入試日程を一部見直し、一般入試SA方式及びSAB方式の入試日を2月1日以降に変更しました。

内部質保証

■自己点検の改善

本年度の教育研究組織及び事務組織の変更を踏まえて、組織別評価委員会の見直しを行いました。各委員会の役割分担を整備し、より充実した自己点検

が行えるように改善しました。また、次年度の大学基準協会への中間報告に向けた準備を行いました。

■教員データベースの充実

教員データベースは、本学に所属する教員の教育研究業績等を広く社会に公開することを目的としています。本年度は、内部質保証を支える基幹システムとするため、教育研究活動に係るデータの集計や検索機能を設け、学内のIR活動に役立てました。

管理運営

■新たな執行部体制

新たな学長のもと、3名の副学長(内2名は新任)、5名の学部長兼研究科長(内3名は新任)及び大学事務局長による新たな執行部で大学の運営をスタートしました。

■組織の改革

従来の各部署が効果的に機能し、より有機的な連携ができるよう、教育研究組織及び事務組織を再構築し、建学の理念の具現化を目指しました。

教育研究組織においては、従来のセンターや研究所等を3副学長が機構長を務める「教育支援機構」「学生支援機構」「研究推進機構」の3つの機構に再編し、魅力ある大学作りに努めました。事務組織においては、「教学支援室」「学生支援室」「研究連携支援室」の新たな部署を設置し、3つの機構と連動して教育研究活動を支え合う教職協働の体制を整備しました。さらに、時代のニーズに応えるため、IRセンター、教育開発センター、グローバル教育センター、コミュニケーション支援課などの部署を新たに設置しました。

■IR担当部署の設置

各部署において保有する諸データを体系的に整備し、分析を行うため、IRセンター(教育研究部門)、IR・企画課(事務部門)を新たに設置しました。今後は学内における諸問題の解決・改善策を提案し、

未来戦略の具体化を目指します。

■学部事務室の統合

理学部事務室、工学部事務室、総合情報学部・生物地球学部事務室の3つの事務室を統合し、新たに学部運営事務室を設置しました。学部運営事務室では、従来置いていた学科担当者を廃止し、業務別に人員を配置し事務処理の効率を高めました。また、教授会や研究科委員会については、5学部・4研究科の共通業務を整理・統合し、運営の一元化と事務担当の省力化を行いました。

■SDの取り組み

本年度より庶務部をSDの担当部署と定め、学園本部研修室と連携して目指すべき職員像を明確にし、職員の能力開発システムの構築を目指しました。

その他の取組

■記念式典

平成25年度に着工したA1号館は、平成28年3月に完成しました。この新棟完成と教育学部の新設を祝して、5月26日に記念式典を開催しました。

■ハラスメントの防止

ハラスメント防止に向けた全学的な教職員の研修を強化するとともに、学部・学科など各部署における防止体制の構築や問題意識の共有を促進しました。

主な行事

4月3日	入学宣誓式
4月4日 ～ 7日	新入生オリエンテーション
4月8日	在学生オリエンテーション
5月7日 ～ 8日	皐月祭
5月26日	A1号館落成記念式典
6月12日	オープンキャンパス
7月8日	七夕エコナイト
8月6・7日	オープンキャンパス
9月10日	春学期学位記授与式 秋学期入学宣誓式
9月11日	教育・進路懇談会（本学会場）
9月12日	秋学期オリエンテーション
9月17日 ～ 18日	教育・進路懇談会（地方会場）
9月25日	オープンキャンパス
10月2日	AO入試・専門学科・総合学科 特別推薦入試Ⅰ期
11月3日	特別推薦入試、専門学科・総合 学科特別推薦入試Ⅱ期、教職特 別課程前期入試
11月11日	OUSフォーラム
11月12日 ～11月14日	半田山祭（大学祭）
11月19日 ～11月20日	推薦入試A方式
12月11日	推薦入試K方式
1月14・15日	大学入試センター試験
2月1日 ～2月3日	一般入試前期SA方式、 一般入試前期SAB方式
2月19日	一般入試SB方式、 一般入試前期B1方式
3月20日	学位記授与式
3月22日	一般入試後期

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成28年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数			
			留学生	社会人		留学生	社会人		
大 学 院	理学研究科（博士）	13	2		39	10			
	理学研究科（修士）	76	50		152	101		1	
	工学研究科（博士）	5	4	1	15	5	1		
	工学研究科（修士）	66	32	3	132	64	7	1	
	総合情報研究科（博士）	2	0		6	6		2	
	総合情報研究科（修士）	13	2		33	16			
	生物地球科学研究科（修士）	12	5		12	5			
大学院 計		187	95	4	389	207	8	4	
学 部	理 学 部	応用数学科	95	98		380	438	1	
		化学科	70	84	3	280	328	3	
		応用物理学科	70	70		280	290		
		基礎理学科	75	75		300	334		
		生物化学科	85	89		340	382		
		臨床生命科学科	85	98		340	390	1	
		動物学科	40	45		160	178		
	計		520	559	3	2,080	2,340	5	0
	工 学 部	バイオ・応用化学科	75	80		300	342	2	
		機械システム工学科	85	89	3	340	380	12	
		電気電子システム学科	70	75	3	280	319	15	
		情報工学科	85	95	2	340	401	7	
		知能機械工学科	55	57	3	220	248	30	
		生命医療工学科	60	61	3	240	247	19	
建築学科		70	71	5	290	327	30		
計		500	528	19	2,010	2,264	115	0	
報 学 部	総合 情報	情報科学科	80	92	1	320	373	6	
		生物地球システム学科 (募集停止)		—	—	0	6		
		社会情報学科	80	80	2	320	368	11	1
計		160	172	3	640	747	17	1	
球 学 部	生物 地球	生物地球学科	120	131	1	460	523	2	1
		計	120	131	1	460	523	2	1
学 部	教育	初等教育学科	70	80		70	80		
		中等教育学科	60	57		60	57		
		計	130	137	0	130	137	0	0
学 部 計		1,430	1,527	26	5,320	6,011	139	2	
総 合 計		1,617	1,622	30	5,709	6,218	147	6	
理学部理学専攻科		30	0		30				
教職特別課程		50	4		50	4			
留学生別科		60	29	29	60	29	29		

(単位：人)

■ 卒業生数等一覧

(平成28年度)

区分		修了者・ 卒業生	満期 退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	6	0	3	3	100%		0	1	6
	修士	89		76	68	89%	5	5	4	7
学部		1,304		1,038	984	95%	154	235	129	417
教職特別課程		4		2	2	100%	1	0	0	0
留学生別科		12		0	0	0%	12	6	0	16

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成29年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	JFEスチール(株) 大和ハウス工業(株)	神戸製鋼所(株) 大成建設(株)	フジパングループ本社(株) (株)三菱東京UFJ銀行	香川県庁 西日本旅客鉄道(株)	他
-------	--------------------------	---------------------	-------------------------------	--------------------	---

■ 教職員数

(平成28年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	教育講師	助手	別科講師	教員計
1	3	163	68	41	6	4	1	1	288

※学長・副学長除く

事務職員	うち大学職員	うち本部職員
	214	113

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

年度		28年度 決算額	前年度 決算額
科目			
教育活動収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	8,951,319	8,952,640
	経常費等補助金	808,168	715,936
	その他収入	1,024,684	1,031,198
	計	10,784,172	10,699,774
支出	人件費	5,287,662	5,265,655
	教育研究経費	3,089,130	2,521,256
	管理経費	639,614	590,195
	その他支出	755	641
	計	9,017,161	8,377,657
	教育活動収支差額	1,767,011	2,322,116
教活外	収		
	受取利息等	7	170
	支借入金利息等	39,293	47,448
	教育活動外収支差額	△39,286	△47,277
	経常収支差額	1,727,725	2,274,839
特別	収		
	資産売却差額等	94,507	16,176
	支資産処分差額等	210,721	47,082
	特別収支差額	△116,214	△30,906
	基本金組入前収支差額	1,611,511	2,243,933
	基本金組入額合計	△329,121	△147,085
	当年度収支差額	1,282,390	2,096,848

■施設設備整備計画 (抜粋)

A1号館完成に伴うインフラ整備、構内道路工事、その他学内改修を引き続き継続しました。装置・設備については、補助事業に基づき購入する機器を計画的に整備しました。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
A1号館 インフラ整備	114,000
A1号館 教育システム	78,840
A2号館 内部改修	6,143
7号館 理科実験室改修	19,570
25号館 多目的トレーニングコーナー改修 (グローバル教育センター)	2,750
第二学舎 4階改修	9,964
構内道路工事	249,664
エントランス(中央芝生)広場工事	27,805
笹ヶ瀬グラウンド 防球ネット	3,150

主な装置・設備関係

(プロジェクト研究推進事業大型機器(私立大学研究ブランディング事業))

(単位：千円)

事業名	金額
X線CTスキャナ	27,650
3Dレーザースキャナ	7,074
カソードルミネッセンス分光システム	12,744
電子スピン共鳴測定装置用マイクロ波ユニット	7,452
およびPCデータシステム	

主な共同研究

(単位：千円)

事業名	金額
QOL向上を目指す支援技術のイノベーション研究拠点の形成事業共同研究	40,000

平成28年度 事業報告



文化の香り豊かな倉敷に位置し、絶好の勉学環境を有し、地域に根差した大学として、地域と協力して、地域の活性化引いては社会の発展に役立つ学生を育てるため、教職員が一丸となって、徹底した教育指導を行います。



教育面では芸術と科学の協調をさらに推し進めて、3つの学部の枠を超えた連携を深め、幅広い知識と柔軟な思考力を持つ学生の育成を引き続き行っています。また、これ

まで以上に教養教育を重視し、その内容を見直し、学生が地域で活躍することができる常識と教養を身につけられるよう教育していきます。

研究面では地域貢献するための研究を推進し、より多くの教員が科学研究費補助金の申請を行うことで、研究に対する意識を向上させ、研究の成果を教育や地域社会に還元できるよう努めます。

地域との連携では「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)に採択され、くらしき作陽大学と共に倉敷市との連携を通じて、全学的に地域の課題解決のため、教育・研究・社会貢献の三位一体の改革に取り組んでいきます。

世の中はグローバル化に向い、一方では地域の個性化、活性化が求められています。こうした社会環境の変化にも対応し、改めて本学の自己点検・評価を実施し、建学の理念に掲げる人材の育成をめざし、さらなる教育改革と大学の環境作りに邁進して参ります。

倉敷芸術科学大学 学長 河野 伊一郎

教育の充実

■教養教育改革

平成25年度より、現行の教養教育から教養科目と専攻科目が連動した全学的なカリキュラムの検討を進め、平成28年度入学生より順次、人間力・社会人基礎力の育成、初年次に大学で学ぶ意識を高める導入教育の強化、地域貢献に対する意識を高め地域で活躍する人材の育成及び教育内容・教育方法の充実を図りました。なお、今年度の実施状況を踏まえ、問題点・課題解決に努めていきます。

■学部・学科の設置

経済・経営学をベースとした幅広い危機管理を学び、社会で活躍する企業や組織で通用する危機管理の専門的知識を身につけた人材の養成を目的とした危機管理学部・危機管理学科を現在ある学部を改組し、平成29年4月に開設します。

■産学連携教育

教育研究の充実による「倉敷市まち・ひと・しごと創生総合戦略」への参画、また倉敷市の市街地利用教育による経済産業省の戦略的中心市街地商業等活性化支援事業への参画、さらに高梁川流域連盟の活動への協力など、倉敷市との連携を通じて、都市づくり、産業・観光振興の人材育成を進めました。また、デザイン・映像分野では企業や行政機関から

依頼される製品デザイン・プロジェクションマッピング、イメージビデオ等の製作により、学生の意欲向上をめざした生きた課題授業を実践しました。

■高大連携教育

教育提携校との生命科学、健康科学、情報科学、観光、美術工芸、デザイン、アニメーション分野などでの連携を引き続き行い、大学、高校間の境目のない接続教育の実現に努めました。

■入学前教育・初年次教育

入学前の新生生に対し、入学前教育課題集を作成、送付し、新生生が大学生活に期待や希望を抱いて入学できるよう、入学前準備教育を実施しました。入学後は、基礎学力の補完を目的とし、1年次対象に前・後期、基本英語・基本数学・基本化学・基本物理等の科目を開講し、学生一人一人の学力に応じた個別相談ができる体制を整え、初年次教育を充実させ、専門教育へ繋げるよう努めました。

■FD・SDへの取り組み

FD・SD研修会、授業アンケート、学生満足度に関するアンケート、授業公開などFD・SDへの取り組みを実施しました。授業アンケートに関して、実施結果を分析し、授業改善に向け反映するよう努めました。

■学科等の特色ある取り組み

- (1) 芸術学部では、倉敷に根差した地域文化プラットフォーム形成のプロセス研究・開発を進めました。この地域拠点となるプラットフォームを東町、玉島の2カ所に「まちなか研究室」として開設し、新しい芸術の交流拠点、新しいものづくりの拠点として地域コミュニティと連携し、地域の抱える課題解決に取り組みました。
- (2) 産業科学技術学部では、市民生活の質の向上を高めるための市民講座を開設していましたが、昨年度より地(知)の拠点整備事業(COC事業)の中で、教育改革と研究改革の成果を地域に還元する生涯学習の場としての「倉敷みらい講座」に繋がまし

た。

- (3) 生命科学部では、平成24年5月に設立された「鈴木章ケミストリーネットワーク」を通じて、化学教育の普及をめざして活動しています。また、地(知)の拠点整備事業(COC事業)において、備災・減災力育成研究に取り組みました。

■資格取得

臨床工学技士、臨床検査技師、救急救命士等の養成に努め、国家試験資格等の100%合格を目指して努力しました。

■教育改善の支援

1. 大学コンソーシアム岡山

大学コンソーシアム岡山では、岡山県内の16大学が連携し、(1)大学相互の協力と情報交換、(2)地域社会との交流と生涯学習の推進、(3)地域高校との連携、(4)地域創生学の構築、(5)地域発信による国際交流を行っています。本学は連携の中で、相互に単位互換として科目提供、また、生涯学習講座への講師を派遣しました。

2. インターンシップを通じた産業界のニーズに対応した教育支援

平成27年度をもって終了した補助金事業の「大学教育再生プログラム」で築き上げてきたネットワークを活用し、倉敷市やロータリークラブ等の支援のもと地元企業との連携を深め、インターンシップやキャリア教育に取り組み、社会的・職業的に自立し、インターンシップを通して産業界のニーズに対応した人材の育成に努めました。

3. 地(知)の拠点整備事業(COC事業)での教育支援

COC事業において、地域活動の中核として活躍できる資質・能力を修得する系統的な学生教育プログラム(くらしき若衆認定制度)においては、地元有識者の外部講師から「倉敷」を学び、自ら街中に出て地域課題を探り出すアクティブラーニング等を実践し、まちづくりのリーダーとして活躍できる社会人の育成を目指しました。10月には、くらしき若衆認定制度で初めての「小若」認定証授与式が行われ14人が認定されました。

■鍼灸ケアセンター

ヘルスピア倉敷鍼灸ケアセンターでは、生命科学部健康科学科鍼灸専攻の学生が実習を行っており、実技修得に励んでいます。また、鍼灸治療院では、本学有資格教員が下記の日程にて外部診療を行っています。

毎週火・木曜日

10:00～12:00、14:00～17:00



研究の充実

■科学研究費助成事業等獲得の推進

科学研究費助成事業（補助金分・基金分）、受託研究、共同研究事業等の外部資金を積極的に獲得することを推進し、9月には、科研費獲得のための申請書作成の説明会を実施しました。申請者や採択者に対し学内研究補助金等を設け、21件(昨年18件)の申請がありました。今後も申請書応募件数の増加に努めていきます。また、外部資金相談窓口を設け情報発信し、研究活動の充実に努めました。

■地(知)の拠点整備事業(COC事業)での研究活動

1. 倉敷アートスタート研究

地域住民と学生が協業して活動プラットフォームを形成する倉敷アートサポートプロジェクト研究とトップアートを活用した倉敷ブランドの確立、並びに地域外のアートマーケットに対する発信を行うオルタナティブ・アート・プロジェクト研究を行いました。

2. 備災・減災力育成研究

安全・安心の地域づくりに寄与するため、緊急避難時の行動分析調査を実施し、クライシスマネジメ

ント教材を開発して、地域の備災・減災力を育成するための映像等を用い、啓発活動を行いました。9月には、昨年につき、東北大震災被災地へ学生11名、教員3名で視察を行い復興状況の確認を行いました。

学生支援

■修学支援

入試の多様化に伴い、基礎学力の充実を図るため各科目（英語・数学・物理・化学）の学習相談や基本講座を開設し学習の支援を行いました。

■障がい者学習支援

障がいを有する学生に対して、障害を理由とする差別の解消のため、大学全体で取り組み、キャンパスライフが充実したものになるよう、個別支援を行いました。

■生活支援

1. 奨学金支援

日本学生支援機構の奨学金を中心に各種奨学金（地方自治体等）を含め、人物、学業に優れ、経済的な理由のため修学が困難な学生に経済的な援助を行う事務窓口を設け、奨学金支援を行いました。

2. 健康等支援・相談

学生の健康管理と健康増進を図るため、定期健康診断の実施や健康に関する相談、心理的・精神的な相談など大学生生活全般にわたる支援を行いました。また、法の義務化による教職員の心理的な負担の程度を把握するための検査（ストレスチェック）を実施しました。

■進路支援

1. 就職ガイダンス

就職ガイダンスは、1，2年次生の低学年を対象に数回開催しました。3年生前期からは、OB・OGの体験報告会や4年次生の内定者報告会をはじめ、マナーメイク講習、個人／集団面接トレーニングな

ども数回取り入れて実施しました。

2. 就職対策講座

履歴書作成や小論文対策等を集中的に実施しました。また、公務員採用対策講座を通年で実施し、公務員希望者の支援をしました。

3. 職業適性等

1年次生を対象に、大学生基礎力調査を実施しました。この調査により、自己発見・自己認識が進み、大学生活における具体的な目標設定が容易になるように支援しました。さらに、3年次生には、キャリアアプローチ(自己診断・適職診断)を実施し、このプログラムで明らかになった「自分の強み」を活かし、希望の進路を実現できるように指導しました。また、年2回(7月・10月)適性検査能力試験を実施し、学生が自分の基礎能力を知ることにより、採用試験に向けた対策に反映させました。

4. 就職支援

就職活動の質問、不安、悩みなどの対応ができるように24時間メールにて学生対応にあたりました。就職試験に向けた面接指導や履歴書指導のほか、就職に関する相談もキャリアセンターで随時受付し、学生に対するきめ細やかな就職支援を行いました。

5. 学生カルテ

学生との面談記録、キャリアガイダンスの出欠状況などのデータを一元化した学生カルテの構築を進め、それにより、きめ細かい学生生活の支援や就職活動支援の一層の充実に努めました。

6. 就職懇談会

企業担当者と教職員が情報交換を行う、加計グループ合同の就職懇談会を、東京、大阪、広島で開催し、就職先の開拓や採用情報の入手に努めました。

■留学生支援

新入生に対して、指定宿舍の部屋を確保し、生活面や学費減免、各種奨学金の紹介などの支援を行いました。また、在留資格の手続きなど大学生活を円滑に送ることができるようバックアップを行い、10月には、留学生別科1年半コースに中国、マレーシア、パキスタン、ベトナム、スリランカ、ネパールから25名の留学生が入学しました。

社会連携・社会貢献

■地(知)の拠点整備事業(COC事業)の推進

地域再生の核となる大学をめざして、平成26年度本学とくらしき作陽大学の2大学の共同申請で採択されたCOC事業を、倉敷市との連携を通じて、全学的に地域の課題を解決するための教育・研究・社会貢献を推し進めました。

■教育提携校との連携強化

高校生にとって将来を考えるきっかけの一助となるように、本学の見学や授業体験、芸術学部卒業制作展鑑賞会などの受け入れ、教育提携校へ講師を派遣しての模擬授業等の高大連携を強化し、大学での学びの提供を行いました。

7月には、関西高等学校と生徒・学生の相互の受け入れを通じて地域に貢献できる人材の育成を目指し、教育連携協定を締結しました。

教育研究環境

■施設等の充実

開学以来の空調設備の老朽化に伴い、省エネを図りよりよい環境のもと教育・研究が可能となるよう3号棟、6号棟(食堂)の空調設備の更新を行いました。

学生の受入

■広報支局長による広報活動強化

高校生にとって進路選択に際しもっとも影響を受ける高校教員との密接な関係を築くため、高等学校の現状に詳しい、本学担当広報支局長による高等学校訪問を強化することで、高等学校現場での認知度向上に努めました。

■高等学校訪問の見直し

岡山県内及び隣接県の高等学校訪問を重点的に実施していますが、新たに山口県及び大阪府の高等学校訪問を実施することで、より広範囲な高等学校現場での認知度向上に努めました。

■入試方法等

設置する学部・学科のアドミッションポリシーに沿った入学者の受入及び広範囲となる地域からの受験生ニーズに応えるべく、利便性に配慮した入試の実施に努めました。その一環とし、昨年度より導入しているネット出願を今年度はAO入試、推薦入試等にも拡大しました。

内部質保証

■自己点検・評価

本学では、開学と同時に自己評価委員会を設置し、自己点検・評価に取り組んでいます。この委員会には、学内委員のほか、産・官・学から1名ずつ外部有識者を構成員に迎え、外部委員の意見を評価に反映させています。大学院、学部、学科、各種委員会が当初目標を設定し、中間報告を経て最終到達報告を行い、次年度に前年度を踏まえた改善目標を設定するなどPDCAサイクルを機能させ教育改革を行いました。また、平成29年度には、日本高等教育評価機構での認証評価受審のため、自己点検評価報告書等の作成準備をしています。

■教員業績システム

教員の基本情報、教育活動、研究業績、学内活動、社会貢献活動等の項目をデータベース化した教員情報システムの構築を推進しました。これにより、各教員の業績等を把握し、様々な面への活用を検討していきます。

その他取組等

■重要無形文化財保持者（人間国宝）

芸術学部 村上 良子教授が工芸技術の部で女性として同分野最年少で重要無形文化保持者（人間国宝）に認定されました。

■創立20周年記念事業

創立20周年を記念し、記念オブジェの制作・設置（4月完成）、クラブハウス（27号館）の増設（10月完成）、ホームページへの創立20年の歩みや将来に向けてのページの制作など記念事業を実施しました。

受賞・課外活動

■主な受賞

- 第67回岡山県美術展覧会
 - 日本画部門 県展賞1名
 - 工芸部門 岡山市長賞1名
 - デザイン部門 県展賞1名、奨励賞1名、入選3名
- 上野の森美術館大賞展 入選1名
- わが街健康プロジェクトポスターコンテスト 優秀賞2名
- 第56回日本クラフトデザイン賞 入選2名
- 第27回春の院展 入選1名
- 京都花鳥館賞奨学金2016
 - 最優秀賞1名、優秀賞1名
- 男子岡山オープンボディビル選手権大会 2位

■部活動報告

- フィギュアスケート部
 - 第71回国民体育大会フィギュアスケート 成年男子優勝
 - USインターナショナルクラシック2016 男子10位
 - 第10回西日本学生フィギュアスケート選手権大会
 - 男子優勝、6位（2名出場）
 - 第42回西日本選手権大会 男子8位
 - 2016NHK杯国際フィギュアスケート競技大会 男子3位
 - 第85回全日本フィギュアスケート選手権大会

男子準優勝、16位（2名出場）

四大陸フィギュアスケート選手権大会 男子6位

世界フィギュアスケート選手権大会 2017 男子19位

○バスケットボール部

(女子)

第8回中国学生バスケットボール新人大会 3位

第42回中国大学バスケットボール選手権春季優勝大会 3位

第33回日本女子学生選抜バスケットボール大会 1名選拔出場

第71回国民体育大会 2名選拔出場

全日本大学バスケットボール選手権大会

中国地区予選会 3位

(男子)

第8回中国学生バスケットボール新人大会 4位

第42回中国大学バスケットボール選手権春季優勝大会 4位

第20回日本学生選抜バスケットボール大会

1名選拔出場

全日本大学バスケットボール選手権大会

中国地区予選会 4位

○空手道部

第44回全日本空手道選手権大会 1名出場

■学部・大学院の学生募集停止

・産業科学技術学部経営情報学科(平成29年4月)

・産業科学技術研究科計算機科学専攻博士(後期)課程 (平成29年4月)

・産業科学技術研究科計算機科学専攻修士課程 (平成29年4月)

■事務組織内容の追加

障害者差別解消法の平成28年4月1日施行に伴い、学生課、健康管理センターに障害者支援に関する項目を追加し、平成28年度は暫定的に運用してきましたが、障がい学生の支援を充実させるため、平成29年度より、健康管理センターの名称を変更し、新たに重点的に対応する課を設置することとしました。

■大学院の組織改革

大学改革等に伴う学部・学科の改編により生じた学部組織と大学院組織の不整合の是正に向け全学的に検討し、次年度以降、具体的に進めていきます。

人事・組織

■副学長・学部長の選出

副学長並びに産業科学技術学部長の任期満了に伴い、副学長：奥本 寛氏、学部長：濱家輝雄氏(再任)を選出し、4月1日から新体制の下、大学運営に当たりました。

■学部・大学院の学科・専攻の廃止

募集停止していた芸術学部美術工芸学科並びに芸術研究科工芸専攻修士課程の在籍者が卒業、修了したため、平成29年3月31日付で廃止しました。

主な行事

4月4日	入学前オリエンテーション
4月5日	入学宣誓式
4月6日 ～9日	新入生・在学生オリエンテーション
4月10日	大学院(通信制)入学宣誓式
4月11日	前期授業開始
4月16日	霞祭
6月5日	春オープンキャンパス
7月30日 31日	夏オープンキャンパス
8月1日 ～5日	前期定期試験
8月6日 7日	教員免許状更新講習会
9月10日	教育懇談会(地方会場)
9月17日	教育懇談会(本学会場)
9月23日	後期オリエンテーション
9月24日	秋オープンキャンパス
9月26日	後期授業開始
10月12日	留学生別科1年半コース入学宣誓式 COC事業くらしき若衆認定証授与式
10月29日 30日	芸科祭 芸科祭・保護者対象オープンキャンパス
11月19日	合格者大学相談会1回目
11月25日	COC事業中間成果発表会・第1回町 衆・若衆フォーラム・外部評価委員会
11月29日	就職懇談会(東京会場)
2月6日 ～10日	後期定期試験
2月11日	合格者大学相談会2回目
3月3日	就職懇談会(広島会場)
3月10日	就職懇談会(大阪会場)
3月23日	学位記授与式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成28年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数			収容定員	在学者数		
			留学生	社会人	留学生		社会人		
大 学 院	芸術研究科(博士)	4	0	0	0	12	3	1	0
	芸術研究科(修士)	10	1	1	0	30	4	1	0
	産業科学技術研究科(博士)	4	0	0	0	12	2	0	0
	産業科学技術研究科(修士)	16	3	0	0	32	5	0	0
	人間文化研究科(修士)	15	2	1	0	30	6	4	0
	大学院 計	49	6	2	0	116	20	6	0
芸 術 学 部	美術工芸学科 (募集停止)	—	—	—	—	35	14	0	0
	メディア映像学科	50	40	2	0	189	172	14	0
	デザイン学科	—	—	—	—	35	27	1	0
	デザイン芸術学科	55	33	3	0	165	112	10	—
	計	105	73	5	0	424	325	25	0
技 産 術 業 学 部 学	経営情報学科	90	36	8	0	336	132	30	0
	観光学科 (募集停止)	—	—	—	—	47	18	8	0
	計	90	36	8	0	383	150	38	0
生 命 科 学 部	生命科学科	50	42	0	0	195	207	1	0
	健康科学科	—	—	—	—	55	60	0	0
	健康科学科(健康科学専攻)	55	70	0	0	165	182	0	0
	健康科学科(鍼灸専攻)	30	9	0	0	90	27	0	0
	生命動物科学科	—	—	—	—	67	64	0	0
	動物生命科学科	60	44	0	0	182	142	0	0
	生命医科学科	50	51	0	0	200	208	0	0
	健康医療学科 (募集停止)	—	—	—	—	30	15	0	0
計	245	216	0	0	984	905	1	0	
学部 計	440	325	13	0	1,791	1,380	64	0	
通学制 合計		489	331	15	0	1,907	1,400	70	0
大 学 院 (通 信 制)	芸術研究科(修士)	10	0	0	0	20	2	0	0
	産業科学技術研究科(修士)	20	0	0	0	40	0	0	0
	人間文化研究科(修士)	30	1	0	1	60	3	0	1
計	60	1	0	1	120	5	0	1	
通信制 合計		60	1	0	1	120	5	0	1
総合計 (通学制+通信制)		549	332	15	1	2,027	1,405	70	1
別 科	留学生別科	60	11	11	—	80	33	33	—
	計	60	11	11	0	80	33	33	0

(単位:人)

■卒業者数等一覧

(平成28年度)

区分		修了者・ 卒業者	満期 退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	1				0%	-	0	0	1
	修士	8	-	7	7	100.0%	0	0	0	1
学部		353	-	270	266	98.5%	12	48	4	25
大学院（通信制）		4	-	-	-	-	0	-	-	0
学部（通信教育課程）		-	-	-	-	-	-	-	-	-
別科	留学生	31	-	-	1	-	30	12	-	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数（平成29年4月1日現在）

（単位：人）

主な就職先	株式会社ストライプ インターナショナル、沖縄県立美術館博物館、株式会社ザグザグ、株式会社カプコン、日本郵便株式会社、株式会社白十字グループ、株式会社中国シール印刷、株式会社イマート、株式会社グラフィカ、浅野産業株式会社、岡山県警察、ホルクラングアイ岡山株式会社、株式会社ビック・エス、シブアーズ株式会社、株式会社GU、九州大学病院、株式会社新来島どつく、岡山西農業協同組合、西日本旅客鉄道株式会社、三田市民病院、株式会社アトム、イソバット株式会社、兵庫県病院局、岡山市立市民病院、広島記念病院、株式会社岡山スポーツ会館、海上保安庁、東京消防庁、瀬戸内市消防本部、SMBC日興証券株式会社、JFEスチール株式会社西日本製鉄所
-------	---

■教職員数

(平成28年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	3	53	21	13	3	1	1	92	63

(単位：人)

*教授欄：学長、副学長の3名を含む。講師欄：副学長1名を含む。

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

年度		28年度 決算額	前年度 決算額
科目			
教育活動収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	2,138,717	2,215,770
	経常費等補助金	276,019	308,368
	その他収入	126,503	192,518
	計	2,541,239	2,716,656
支出	人件費	1,894,232	2,101,393
	教育研究経費	822,173	939,300
	管理経費	268,633	263,216
	その他支出	130	545
	計	2,985,168	3,304,454
教育活動収支差額		△443,929	△587,798
教育活動外	収入		
	受取利息等	2	67
	借入金利息等	10,556	12,753
教育活動外収支差額		△10,554	△12,686
経常収支差額		△454,483	△600,485
特別	収入		
	資産売却差額等	1,036	8,051
	資産処分差額等	6,115	60,048
特別収支差額		△5,079	△51,997
基本金組入前収支差額		△459,562	△652,481
基本金組入額合計		△104,199	0
当年度収支差額		△563,761	△652,481

■施設設備整備事業

(単位：千円)

事業名	金額
厚生会館空調機更新（6号館）	23,255
クラブハウス新築工事（27号館）	57,831
本館空調機更新（3号館）	20,446
芸術学部実習室 PC 関連設備	24,894
生体代行装置一式	6,048
教務システム用サーバー更新	2,247
学内ネットワークシステムファイアーウォール導入	4,202
新クラブハウスへのインターネットケーブル敷設工事	1,188
ヘルシア倉敷ホルタルック施設設置工事	18,300

平成28年度 事業報告



千葉科学大学

「健康で安全・安心な社会」の構築に貢献できる人材の養成を行う



- 1、学生のニーズに適切に対応できる教育・研究体勢の構築を図ります。
- 2、激変する社会・経済等外部環境を踏まえ、グローバルな視点で既存のプログラムを再検討します。
- 3、地域に貢献し、地域の協力・支持を得られる大学を創ります。

千葉科学大学 学長 木曾 功

教育の充実

■FD活動の推進

学生による授業評価アンケート、教員対象のFD講演会、教員相互に行う公開授業及びFD活動に関する意見交換会などを実施し、FD活動を推進しました。

■大学間連携共同教育推進事業

昨年度に引き続き本学と千葉大学及び城西国際大学による5つのプログラムにおけるeラーニング及び演習を各大学にて実施し（本学主管演習は8月実施）、2月に受講修了学生による成果発表会を千葉大学にて開催しました。なお、この事業は平成29年度で終了予定です。

■留学生対象日本語補習講座の開講

1年次生の留学生を対象に1年以内の日本語能力検定2級合格を目標とした補習講座対象者18名に対して3ヶ月間で18回開講しました。

■社会人大学院サテライト教室（東京）

社会人の学び直しに応えるため、在職したままで学位取得の可能な「大学院危機管理学研究科サテライト教室」を開講し、危機管理学をワン・ストップで総合的に学び、修士、博士の学位が取得できる大学院教育を推進しました。

■地域志向科目の必修化

銚子地域を学習する科目「銚子学」については、危機管理システム学科から始まり、全学部必修化を順次、行っていきます。

■24時間利用可能な図書館棟の増築

現図書館の横に2階建（600㎡）を増築（9月末竣工）し、学生の学習環境を充実させました。1階は国試対策のため24時間開放し、個別学習室やラーニングcommons室を設置し、対話型学習が可能な図書館となりました。



研究の充実

■薬学部

薬学部では、新年度の研究活動を充実する目的で、科学研究費の応募をこれまで以上に増やし採択数の増加に繋がっています。また、科学研究費以外の外部研究費も可能な限り応募し研究環境の向上を目指しています。また、本年度は共通機器として「細胞イメージ解析装置」を購入し、最先端の機器を使用することでさらなる研究活動の向上を図りました。

■看護学部

開設3年目を迎えた看護学部では、4名の教員が科研代表者となり研究を進めました。種目は、若手B1題、基盤C2題、挑戦的萌芽1題です。

また、開設初年度より、千葉県北東地区・茨城県南東地区並びに実習施設の看護実践者（看護師・保健師・養護教諭）と本学部教員により看護実践研究会を発足し、実践現場の課題に着目した研究活動を行っており、今年度も本学において5月21日に研修会（参加者92名）を開催し、11月に研究発表

会を開催しました。

■大学院の充実

学部学生の大学院進学説明会の開催や積極的な研究室の紹介により、大学院への進学率の向上に努めました。

■科学研究費助成事業等獲得の推進

全教員に対し、科学研究費助成事業、厚生労働科学研究費、受託研究、共同研究事業などの外部資金を獲得することを積極的に推進しました。また学外連携ボランティア推進室が中心となり、そのための情報収集と教員に対する説明会開催ならびに申請の際のバックアップ体制を整え、より多くの外部資金獲得を目指しました。

■教育研究経費（学内科研費）の活用

学内科研費を設定し、優れた研究内容で研究意欲の高い教員や大学院生に対し、研究支援を行いました。また、項目を定め、特色ある研究に対し、重点的に予算配分を行い、研究の推進を図りました。

■好適環境水を利用した研究の推進

好適環境水を利用したふぐ等の海水魚の新たな養殖方法の研究や好適環境水が持つ魚類病原菌抑制作用の研究を行いました。

■私立大学研究ブランディング事業

文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」に本年度申請し、採択されました。

事業名：「フィッシュ・ファクトリー」システムの開発及び「大学発ブランド水産種」の生産
事業期間：5年

設置・改組

■危機管理学部

危機管理学部では、環境危機管理学科の中に風力発電コースを新たに設置し、風力発電に関する総合的な知識と技能を身に付けたエンジニアを養成します。工学技術危機管理学科を航空技術危機管理学科に名称を変更し、エアラインパイロットプログラムコースの充実を図りました。

また、危機管理学を1つの学術分野として確立させることを目的とした「総合危機管理学会」を設立し一般会員、団体会員、賛助会員、学生会員を募りました。

■大学院看護学研究科看護学専攻修士課程

平成29年度に本学看護学部が完成年度を迎えるにあたり、より高度な保健・医療・福祉の質の向上に広く貢献する看護職を育成する大学院として、本学大学院に看護学研究科の設置申請を行いました。

学生支援

学生に対する就職支援、キャリア支援、各種資格取得支援、就職先企業の開拓などを行っています。特に、地元出身学生の増加に合わせて、地元及び周辺地域企業に重点を置いて開拓を継続しました。

■就職支援

3年次生を対象に、就職活動を進める上で必要なテーマを取り上げる就職ガイダンスや、様々な業界を知る業界セミナーを学内で開催しました。

また、3年次生（薬学科は5年次生）全員との個人面談を実施し、個別指導を行いました。

■インターンシップ

企業等に学生を派遣するインターンシップに取り組み、夏期に1週間から2週間の就業体験を実施しました。（37事業所に学生73名派遣）

■合同業界研究会

各事業所の担当者と本学学生がブース別に面談し、それぞれの事業所の仕事内容についての説明会を学内で開催しました。

■キャリア支援

キャリア支援科目にスタッフを派遣し自己理解やコミュニケーションの重要性などを学生に伝えました。

■公務員試験対策

2月から3月にかけて公務員採用試験の筆記対策として基礎講座（主に1・2年次対象）、実践講座（3年次対象）を開講しました。また、学内にて面接対策セミナーを実施しました。

8月から翌年2月～3月にかけて公務員採用試験対策講座（ハイグレード講座）を実施しました。この講座は、主に地方上級職、国家一般職を目指す学生を対象として選抜試験を実施し対象学生を選出しました。業者主催の公務員模擬試験を学内で実施しました。

■就職先企業開拓

様々な業種の企業を新たに訪問し、就職先の開拓を行いました。特に銚子及び神栖市周辺の地元企業の開拓に努め、神栖市内で就職懇談会を開催しました。また、加計グループの就職懇談会（東京、大阪、広島）を開催しました。

■各種資格取得支援

防災士、危険物取扱者などの試験対策講座を開講し、資格取得試験を学内で実施しました。

■生活支援

新入生・在学学生オリエンテーションや各種奨学金の説明会・アパートの紹介など学生の日々の生活に関連する支援を行ってきました。特に通学路の夜間の安全を守るため、銚子市等に働きかけ、街灯の設置を実現しました。

■留学生支援

新入生オリエンテーションから日本語や日本の文化に慣れるように在学留学生の協力を得て新入生への指導を行いました。

- ・ 一日研修旅行 11月14日実施
留学生19名、日本人学生7名参加
- ・ 加計杯日本語弁論大会 11月6日開催
(於：吉備国際大学)
本学代表が3年連続総合優勝

社会連携・社会貢献

■地(知)の拠点大学による地方創生推進事業

「防災・郷土教育を積み上げた、人に優しく安心して住める地域創り」は本学による地域社会貢献事業です。平成26年度、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」に採択され、地域活性化の中核を担う大学として人材の育成や地域の振興に取り組んでいます。さらに「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に参加し、これまでの取り組み実績を活用して地方創生を推進しました。

■CISフォーラム

有識者による講演会を開催し、大学、企業の担当者が研究成果やシーズを紹介し、産学連携を推進しました。

- ・ 10月8日開催
参加者212名、出展事業社114社



■ボランティア活動

社会に貢献しながら学ぶ体制を確立するために、学生団体や一般学生にボランティアや地域貢献に関する情報を提供し、参加する仕組みを整備し、円滑

なボランティア活動を支援しました。熊本災害ボランティアをはじめとして18種類のボランティア活動に延べ174名が参加しました。

■銚子ジオパーク

銚子ジオパークとして認定を受けた屏風ヶ浦の地層犬吠埼の浅海堆積物(共に国指定天然記念物)などを観光資源として活用すると同時に地域住民及び地元の小中学生、高校生には、これらを活用した郷土教育を行うことにより、地元に対する愛着を育成し、「地育地就」にも貢献しました。

■図書館の地域市民への開放

開学以来、図書館を地域、市民の皆様に開放し、本年度は図書館報を発刊し、市民との連携を深めました。

■市民公開講座の開催

平成24年から引き続き、本年度も大学主催の市民公開講座を年6回開催しました。

第1回(93名)、第2回(60名)、第3回(88名)第4回(112名)、第5回(89名)、第6回(95名)、合計537名の市民の参加がありました。

■教員免許状更新講習の実施

地域からの要望により、昨年に引き続き8月6日から8月10日にかけて教員免許状更新講習を実施しました。

■日本語能力検定試験

本学が日本語能力検定試験会場となり、年2回実施し、第1回目は7月3日に実施し2回目は12月に実施しました。

■教育提携校と関係強化

今年度は協定を締結した高校との相互関係を一層強化できるよう学生・生徒の研究発表等の開催や高校教員との意見交換会(高大連携推進協議会、高大連携教育研究交流会)を行いました。

■出張講義の拡大と内容の充実

高等学校への出張講義の実施回数を増やしました。また、知の拠点としての大学の機能を更に発展させていきます。

■English Camp（高校生対象）

銚子市内にある高等学校に通う1・2年生の生徒を対象に本学において3月27日・28日の2日間を通して英語セミナー(会話を中心)実施しました。

■千葉科学大学おうえん協議会が発足

銚子市内及び近隣の有志による「千葉科学大学おうえん協議会」が発足しました。

国際交流

■海外からの研修団受入

7月	アメリカ研修団 フィンドリー仕事体験生終了
9月	フィンドリー大学より仕事体験生受け入れ
11月～ 12月	ポルトガル語講座 開講

■海外へ研修団派遣

8月	ライト大学へ海外研修団派遣
	フィンドリー大学へ海外研修団派遣
2月	台湾へ海外研修団派遣
	韓国へ海外研修団派遣

■特別科目等履修生受入

秋学期（9月）より、危機管理学部に学生1名を受け入れました。

教育研究環境

■ネットワーク基盤システムのリプレイス

ネットワーク基盤(サーバ)のリプレイスを行い、

Windows10への対応環境を構築し、学生が携帯するPCを積極的に活用できるよう、ネットワーク教育環境を充実させました。

■キャンパス美化

学内のキャンパス美化について、①学生・教職員の美化意識の向上②施設のメンテナンスの実施③アウトソーシング部分の見直しを図り、各種委員会ならびに各部署と協力しながら、全学的にキャンパス美化を推進していきます。

■省エネの推進

学内の省エネについて、①省エネに取り組める体制作り②学生・教職員の省エネ意識向上③省エネ設備、器具等の導入の計画等、大学全体で取り組むべき課題であることを認識し取り組みました。

学生の受入

■入試方法等

AO入試において、従来のエントリー制を廃止し、入学願書の出願（自己アピールを含む志望の理由等の課題、高校の調査含む）の後、面接と書類審査で合否判定を行いました。

昨年から導入したインターネット出願を積極的に利用するようPRしました。

■オープンキャンパス

各学部・学科イベント時間帯に、参加者が複数の学科等を訪問しやすいタイムスケジュールとしました。全体会を看護学部棟の大講義室で開催し、盛況感のあるイベントとし、参加した高校生が、「この大学で、この学科で、この研究室で、こんな勉強をしてみたい」という夢と希望を持つだけでなく、実現に向けた手伝いができるような内容を企画しました。

内部質保証

■FDワーキンググループ

FDワーキンググループは、春学期・秋学期4回の学生による授業評価アンケート、年数回のFD講演会、公開授業および意見交換会などを継続して実施し、学生の満足度を向上させる教育改善を目指しました。今年度は7月に授業参観を行い、教授会開催日に意見交換会を実施しました。

■認証評価機関による認証評価の受審準備

第2期 大学評価（認証評価）受審に向け、千葉科学大学学点検・評価報告書（案）の作成等準備を進めていきます。

主な行事

4月4日	新入生オリエンテーション
4月5日 ～6日	新入生宿泊研修
4月7日	入学宣誓式
4月8日	在学生春学期オリエンテーション
5月29日	オープンキャンパス
7月2日	別科・特別科目等履修生入試
7月16日 ～17日	オープンキャンパス
7月30日 ～8月10日	春学期定期試験
8月6日 ～10日	教員免許状更新講習会
8月7日	オープンキャンパス
9月10日	教育進路懇談会（地方）
9月17日	教育進路懇談会（本学）
9月18日	オープンキャンパス
9月20日	秋学期オリエンテーション
10月8日	C I Sフォーラム
11月12日 ～13日	青澄祭（大学祭）
11月29日	就職懇談会（東京会場）
12月10日 ～11日	合同業界研究会
12月17日	病院研究会
1月24日 ～2月4日	秋学期定期試験
2月27日	就職懇談会（広島会場）
2月28日	就職懇談会（大阪会場）
3月25日	学位記授与式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成28年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数		収容定員	在学者数				
			留学生	社会人		留学生	社会人			
大 学 院	薬学研究科（博士一貫）	3	0	0	12	2	0	0		
	薬学研究科（博士）	5	0	0	15	1	0	0		
	薬学研究科（修士）	10	4	0	20	5	0	0		
	危機管理学研究科（博士）	3	1	0	9	4	0	4		
	危機管理学研究科（修士）	5	10	0	10	15	2	3		
	大学院 計	26	15	0	4	66	27	2	7	
学 部	薬 学 部	薬学科（6年制）	120	102	14	0	720	657	36	1
		薬科学科 <small>（募集停止）</small>	—	—	—	—	0	2	0	0
		生命薬科学科	40	8	1	0	160	81	5	0
		計	160	110	15	0	880	740	41	1
	危 機 管 理 学 部	危機管理システム学科	100	88	11	0	400	353	48	0
		動物・環境システム学科 <small>（募集停止）</small>	—	—	—	—	0	3	0	0
		環境危機管理学科	40	14	1	0	160	92	3	0
		医療危機管理学科	80	74	0	0	320	321	1	1
		工学技術危機管理学科	40	12	2	0	160	33	5	0
		動物危機管理学科	40	21	0	0	160	114	0	0
		計	300	209	14	0	1,200	916	57	1
	学 看 部 護	看護学科	80	97	0	0	240	274	0	0
		計	80	97	0	0	240	274	0	0
	学部 計		540	416	29	0	2,320	1,930	98	2
	総 合 計		566	431	29	4	2,386	1,957	100	9
留学生別科		40	8	8	0	40	18	18	0	

(単位：人)

■卒業者数等一覧

(平成28年度)

区分	修了者・ 卒業者	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	8	5	5	100%	1	0	1	1
学部	300	224	208	93%	15	90	23	190

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成29年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	ウエルシアホールディングス(株)、クオール(株)、農林水産省畜産系技術職員、茨城県職員(病院局)、戸田中央医科グループ、日本医科大学付属病院、東京消防庁、横浜市消防局、松戸市消防局、札幌市消防局、銚子市消防本部、警視庁、千葉県警察本部、茨城県警察本部、神奈川県警察本部、栃木県警察本部、自衛隊、日本郵便株式会社、銚子商工信用組合、鴻池運輸株式会社、(株)アピスト、イオンペット(株)、東急セキュリティー(株)、(株)FMGエアサービス
-------	---

■教職員数

(平成28年5月1日現在)

学長	副学長	教授※	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	2	75	18	23	12	8	1	140	52

※大学院教授1名含む

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

年度		28年度	前年度
科目		決算額	決算額
教育活動収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	3,045,993	3,110,064
	経常費等補助金	371,101	352,671
	その他収入	139,010	192,753
	計	3,556,104	3,655,488
支出	人件費	2,338,952	2,268,330
	教育研究経費	1,194,251	1,343,844
	管理経費	415,406	409,061
	その他支出	1,219	1,335
	計	3,949,828	4,022,570
教育活動収支差額		△393,724	△367,082
教活外	収入		
	受取利息等	5	86
	支出		
借入金利息等	4,679	5,307	
教育活動外収支差額		△4,674	△5,221
経常収支差額		△398,398	△372,303
特別	収入		
	資産売却差額等	2,268	4,606
	支出		
資産処分差額等	1,549	55	
特別収支差額		719	4,552
基本金組入前収支差額		△397,679	△367,752
基本金組入額合計		△353,472	△69,394
当年度収支差額		△751,152	△437,146

■施設設備整備事業

(単位：千円)

事業名	金額
図書館増築工事	236,067
体育館防水改修工事	13,462
クラブハウス棟防音対策工事	1,200
第4期ネットワーク基盤システムプレイス事業 [機器]	36,518
第4期ネットワーク基盤システムプレイス事業 [ソフトウェア]	6,682
図書館増築部への教具及び校具	27,000
細胞イメージ解析システム	14,796
看護学部看護学科図書購入 (創設費)	2,500

平成 28 年度 事業報告

附 岡山理科大学附属高等学校

教育の質的改善に取り組むことによって、地域社会から一層信頼される高等学校づくりを推進しました。



建学の理念や校訓を実質的に実りあるものにするために、次のような教育活動を推進しました。

- (1) 高等学校教育を組織的な最後の教養教育の場としてとらえ、各教科をしっかりと教えることによって、生徒に継続的な勉学の習慣と確かな学力を身につけさせます。
- (2) 高等学校時代を人生で人格的変容のもっとも重要な時期ととらえ、依存的な子どもから自立的な大人へと脱皮してゆくように、生徒の生活指導を行います。
- (3) 生徒の安全と身体的健康に注意し、自由で開明的な校内雰囲気を醸成します。

特に、今年度は重点目標を学校改革とし、学校改革も進めながら、次の5つの事項に留意して事業を進めます。

- ①財務改善
 - ・教員人事の適正厳守（員数と年齢構成）
 - ・教育課程の効率化（共通化と特色化の仕分け）
 - ・生徒定員の充足
- ②効率的・実質的な校内組織（簡素化指向、役務の流動化、若手の登用、横の連絡の強化、女性教員の役職参加）
- ③4つのバランス（附属高校改善のための調査から）
 - (i)文武のバランス（進学実績の向上、新しい進学指導プログラム）
 - (ii)男女生徒の適正比率（女子生徒の増加）
 - (iii)文理志望のバランス
 - (iv)教員年齢構成の適正化
- ④教育学科の育成（全校的取り組みへ）
- ⑤SSH事業の継続（協働探究学習と基礎学力）

岡山理科大学附属高等学校
校長 洲脇 史朗

教育の充実

■SSH校としての取組

- (1) 全校一丸となり、研究開発・指導に取り組む体制を構築し、実行します。そのために、サイエンスワークを1年生全体の取組みで発表力や協働する力を養成し、さらに高校2年生と3年生での課題研究で探究力を高め、大学聴講により円滑な高大接続を実施し、探究する力を養い研究成果発表を行いました。

- (2) SSH事業計画は、以下の項目を実施しました。

- ①自然体験・科学部活動の充実によるSSH事業の推進
- ②カリキュラムの開発
- ③言語力や国際的素養の育成
- ④高大接続・大学聴講
- ⑤新しい教育評価法の研究

■関連校・提携先との連携による質の高い教育の提供

高校での授業に加え、関連大学や関連専門学校での実習、聴講を体験することで、多面的な理解を深め、また、より体験的な教育として、学園の提携する施設等（池田動物園・山田養蜂場他）での実習により、興味・関心を深めました。

関連校との連携においては、岡山理科大学・倉敷芸術科学大学・岡山理科大学専門学校等において授

業・体験等を行いました。また、提携する池田動物園では、動物に触れながら、生態等の勉強や飼育等の実習を行い連携を強めました。

■学校内での学力向上取組

- (1) 学校行事を精選し、より多くの授業時間を確保するよう努めました。
- (2) 補習や諸検定試験、模試を実施し、学力の伸長を図るとともに自主学習を促しました。

■教職員への資質向上への取組

- (1) 公開授業を実施し、校内教員や外部講師による授業評価を受けることで、教員の教育力向上に取り組みました。
- (2) 先進的な教育や取り組みをしている学校等を視察・見学・体験し、本校への導入を検討することで、新たな教育の展開を行うために情報提供にも努めました。
- (3) 外部講師を招き、資質向上のための講演会を実施しました。

生徒指導

■生徒指導

- (1) 教育相談室・保健室・担任・生徒指導部・管理職との連携を強化し、生徒の学校生活を学校全体で支援する体制の強化に努めました。
- (2) 朝のあいさつ運動を実施し、あいさつ、マナー向上を目指すとともに、生徒の服装、頭髪の乱れなどへの声かけ・指導を行いました。
- (3) 生徒・教職員が協力して、近隣の通学路に人員を配置し、交通マナーの徹底に努め、自転車マナー向上に向けて指導の強化を実行しました。
- (4) P T Aと協力しての保導活動（街頭保導・列車保導）を年間50回実施しました。
- (5) 岡北セーフティネットを通じて地域との協力・連携を強化し、更に地域との協働の向上に努めました。

(6) いじめ予防のための人権学習を進め、その中で生徒に生命の大切さを伝えました。

(7) ソーシャルメディアの正しい活用について、外部講師を招き、情報化社会の中での情報リテラシーを学ばせました。

進学・就職指導

■進学指導と就職活動支援

- (1) 国公立大学への進学者が増えるよう、センター試験対策講座・国公立対策特別教室・夏季特別講座等の学力向上を目指したプログラムを計画・実施しました。
- (2) 関連大学を紹介する機会を増やし、関連大学への進学意欲を更に向上させるため職員会議において説明会を実施し、教職員の意志精通を図りました。
- (3) より多くの大学訪問を行い、広く情報交換を行いました。また、より多くの指定校推薦枠獲得を目指し、146大学・30短期大学からの推薦依頼を受けることができました。
- (4) 生徒に合わせた就職指導を行い、学校斡旋就職率100%を目指し、達成することができました。

科・コースの取組

■教育学科

設置2年目を迎え、当初の趣旨の通り、教員をめざす生徒の熱意を冷めさせることのないように、小学校等での体験学習を実施すると共に、入試科目などの一般科目にも十分な時間数を配置して、基礎学力の向上と学力の伸長に努めました。今後の改革を見据えて、更なる充実を図ります。

■普通科

四年制大学をはじめとする上級学校へ進学するために、必要な学力を習得させるべく、指導内容の精選とわかりやすい授業を行うとともに、放課後補習や課題での指導によって基礎学力の向上と充実に努めました。

また、確かな進路実現を図るため、幅広い情報収集と的確な分析による、組織的で継続的な進路指導に努め、生徒個々の希望等に副える支援を実施しました。今後の改革において、教育方法の改善を含め充実に努めます。

■機械科

(1) 資格取得の強化のため、徹底した補習を実施し、機械保全、危険物、計算技術等の補習を実施しました。

その結果、今年度も各種資格検定に多数合格し、また、ジュニアマイスター顕彰、技術顕彰を受賞しました。

(2) 高大連携を構築し、関連大学への進学を保障できるよう指導しました。

■電気情報科

(1) 国家資格等の中から3つ以上の資格取得を目指しました。

(2) 進学希望者には、高大連携を継続実施して関連大学への進学を目指しました。

(3) 就職希望者には面接指導等を強化し、100%の内定を目指し、達成することができました。

通信制課程

■通信制課程の取組

教育を受ける機会を最大限に配慮するため、入学、転入学を随時可能としました。また、入学後は学年令の区分に縛られない、生徒の希望、資質、

進路に適合したクラス編成により、生徒のニーズに合った指導を行いました。

〈今後の取り組み目標〉

1. 平日コースの充実

平日、週2日（月曜日・木曜日）の登校により、H・R、所定の授業、学校行事（球技大会、文化祭、3年生を送る会など）、各種研修（校外研修4回、2年生を対象とした研修旅行など）を計画的に実施することにより、自律・協調・継続と教養を高める指導を行いました。

2. 進路先の開拓と充実

通信制課程高等学校卒業後の進路確定率を向上させるために、特別進路講座（火曜日・水曜日）を開講し、向上に努めました。

3. 生徒募集活動の強化

学校説明会を毎月実施するとともに、ホームページの内容充実に努めました。また、県内中学校、高等学校の学校訪問を行い、広報・生徒募集活動の強化を図りました。

生徒の受入

2期生を迎える教育学科を中心に、普通科6コース、機械科という陣容で以下の生徒募集活動に取り組みました。

■オープンスクール・入試セミナー

オープンスクールでは、本校の概要・設備を中学生・保護者に知らせると共に、各科・コースの特色を紹介し、授業や実習内容をアピールしました。また、部活動の体験ができるオープンスクールを約1週間実施し、本校への関心を高める取り組みを行いました。

入試セミナーでは、本校の入試制度や出題傾向を重点的に解説し、本校への受験意欲の向上を目指しました。

■中学校訪問・中学校対象説明会

県内および近県（兵庫・広島・香川等）の中学校の進路担当者に対し、本校の概要・入試制度を紹介し、生徒への周知を依頼しました。また、中学校教員対象体験型研修会も実施しましたが、今後も継続的な広報活動を展開し、一層の周知を図って行きます。

■塾訪問・塾対象説明会

年間を通して、塾を訪問し、適格な情報を提供し、相互の信頼関係を構築し、本校への理解を深めてもらい、生徒への紹介や周知に努めました。

■地区別説明会

県内、各地区に教職員が出向き、生徒・保護者向けの説明会を実施しました。直接アピールすることにより身近に本校を感じてもらい、理解・関心を深めることに努めました。岡山市内各地域、玉野市、瀬戸内市、倉敷市、総社市、和気町、高梁市等の18会場で20回実施しました。広報活動全般については、改革の動向を踏まえ抜本的な改善を検討して行きます。

■ホームページの充実

ホームページの構成を刷新するとともに、内容を充実させ、適宜情報発信しながら、募集活動に努めました。

内部質保証

■授業アンケートによる授業評価

生徒、保護者に授業アンケート等を実施し、結果を以後の学校運営や授業へ反映することでより良い教育の提供に努めました。また教員の授業評価等を実施し、質の保証の向上を目指しました。質保証についての取り組みは、今後も強化していきます。

主な行事

4月8日	始業式
4月9日	入学式
4月17日	入学式（通信）
5月16日	P T A総会
6月15～ 16日	球技大会
7月17日	後援会総会（通信）
7月24日	卒業式（通信）
8月28日	入学式（通信）
9月28日	体育祭
9月30日	文化祭
10月1日	文化祭（通信）
12月4日	卒業式（通信）
12月18日	入学式（通信）
1月7日	県外生入試
2月2・3日	選抜1期入試
2月21日	選抜2期入試
3月1日	卒業式
3月12日	卒業式（通信制課程）
3月17日	終業式

生徒・教職員数

■在籍生徒数

(平成28年5月1日現在)

課程・学科・コース名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	
全 日 制 課 程	教育学科	40	7	80	16	
	普 通 科	特別進学コース	20	310	1,140	877
		進学理大コース	60			
		進学総合コース	60			
		生命動物コース	40			
		アニメ・デザインコース	60			
		健康・スポーツコース	60			
		中高一貫コース	80			
	進学医療コース	(募集停止)				
	普通科 計	380				
機械科	80	56	240	171		
電気情報科	(募集停止)		40	28		
全日制課程 計		500	373	1,500	1,092	
通信制課程 (広域) 普通科				600	190	
総合計		500	373	2,100	1,282	

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成28年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学希望者 C	進学者 D	進学率 D/C	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
全日制課程	340	60	60	100%	280	276	99%	9	0	1
通信制課程	72	34	10	29%	38	29	76%	7	2	0

※ 修業年限を超えて在籍している生徒数 (平成29年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	トヨタ自動車㈱、㈱豊田自動織機、㈱デンソー、タチイ工業㈱本社、三菱自動車工業㈱、今治造船㈱ 三井造船㈱、富士ダイス㈱、㈱NTN赤岩製作所、カネテック㈱、㈱トヨタ、㈱マリークワントコスモックス、日宝総合製本㈱他
主な進学先	九州大学、岡山大学、香川大学、高知大学、島根大学、埼玉大学、横浜市立大学、岡山県立大学 早稲田大学、明治大学、東京理科大学、立命館大学、同志社大学、関西学院大学、関西大学 岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学、吉備国際大学、九州保健福祉大学 他

■教職員数

(平成28年5月1日現在)

校長	副校長・教頭※	教諭	教員 計	事務職員
1	5	66	72	14

※中学校との兼務者2名含む。

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	
		28年度 決算額	前年度 決算額
教育活動 収入	学生生徒等納付金収入	634,356	661,128
	経常費等補助金	327,628	333,327
	その他収入	35,261	182,245
	計	997,244	1,176,700
	教育活動収支差額	△320,797	△346,844
教育活動 支出	人件費	952,760	1,098,052
	教育研究経費	259,157	312,941
	管理経費	106,115	112,551
	その他支出	10	0
	計	1,318,042	1,523,544
教育活動外収入			
収入	受取利息等	2	50
支出	借入金利息等	15,550	21,060
教育活動外収支差額		△15,549	△21,011
経常収支差額		△336,346	△367,855
特別	収入	資産売却差額等	500
	支出	資産処分差額等	1,090
	特別収支差額		△590
基本金組入前収支差額		△336,936	△367,723
基本金組入額合計		△96,320	△262,505
当年度収支差額		△433,257	△630,227

■施設設備整備事業

(単位：千円)

事業名	金額
第11校舎1階女子トイレ改修	840
第12校舎2階女子トイレ改修	2,000
硬式テニス場改修	12,500
マイクロバス購入	6,250

平成 28 年度 事業報告



岡山理科大学附属中学校

中高一貫校の優れた教育内容を提供し、学んでいる子どもたちの学力をさらに伸ばし、難関大学入試を突破するだけでなく、社会に出て各分野で活躍できる人材を育成します。



グローバル化や産業構造の転換などの変化により、社会で求められる能力が変わりつつあります。変化する社会の中で、自分の人生

を生き、社会の持続的な発展に貢献するためには、自分の頭で考えて判断し、主体的に行動できるような人を育てる教育が求められています。

本校は、知識・技能のみならず思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性という「真の学力の育成・評価」に取り組みました。

大学の併設校としてのスケールメリットを存分に活かし、中大が連携することで、大学で学ぶ学問の一端にいち早く触れる機会を設け学ぶことの楽しさを実感させるとともに、能動的な学びの下、知的好奇心が刺激され、勉学へのモチベーションを高められることで、将来のキャリア形成の契機としました。

また、このような取り組みを通じて大学入試センター試験に代わり新たに実施される「新テスト」にいち早く対応できるように、今後も継続して授業改革を進めます。

加えて、加計学園の建学の理念を教育柱に「立志三風」を定め、その実現のために「生活三則」の指導を教職員一丸となって取り組みました。今後も継続して学校運営を行います。

立志三風

- 一、慎独・去稚心の志風を守る（自主）
- 一、振気・勉学の良風と尚ぶ（努力）
- 一、忠恕・爽凜の美風と養う（友愛）

生活三則

- 一、場と清めましょう
- 一、時と守りましょう
- 一、礼と正しましょう

岡山理科大学附属中学校

校長 河村 定彦

教学の充実

■高校進学クラスの新設

平成29年4月より、従来の中高一貫コース（スーパー選抜クラス・選抜クラス 定員80名）を廃止して、中高一貫クラス（定員40名）と新たに高校進学クラス（定員40名）にします。中高一貫クラスは難関国公立大学の進学を目指します。高校進学クラスは難関公立高校や難関私立高校への進学を目指します。これにより、中高一貫クラスと高校進学クラスの2クラスとし、進路選択の多様化を図りました。

■クラス別教育目標

- (1) スーパー選抜クラスの全国中学校偏差値60を維持しました。

また、自ら進んで学習する「自立学習」を身に

つけさせることで、難関大学に合格できる学力を養いました。

- (2) 選抜クラスは、基礎学力の充実を図り、学ぶことの大切さを身につけさせ、大学進学に対応させました。

■生徒による授業評価・教員自己評価

確かな学力を育むために、教員の授業改革が生徒にどのように受け止められているのかを知り、生徒の側から捉えた授業改善を進めるとともに、授業担当教員自らが自己評価を行いながら改善点を明らかにして、授業改善に生かしました。

■授業計画書の作成

全科目の授業計画書を作成し、授業内容及び授業進捗を生徒・保護者が理解し、円滑な学習活動が行えるように学習支援の強化を図りました。

■自習教室の開設

生徒の自学自習能力を向上させ、習慣となるように、全学年を対象として、放課後に自習教室を開設しました。岡山理科大学と連携して、教員志望の大学生による学習サポート体制で週3日実施しました。

■英会話

英会話を1～3年生の全クラスで実施し、自分から積極的にコミュニケーションをとれる姿勢を養いました。また、1・2年生から大学入学希望者学力評価テスト(仮称)を見越し、4技能(聞く、話す、読む、書く)に対応したケンブリッジ大学英語検定のコースブック・英語教材を使用し英語力の強化を図りました。

■実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施

1年生の9割以上が5級以上。2年生の8割以上が4級以上。3年生の6割以上が3級以上の取得を目標とし、教員が生徒に対し、積極的に受検指導を行い、目標の達成に努めました。今後も、継続して上位級の取得指導に努めます。

■TOEIC Bridgeを1・2年生の生徒に実施

- (1) 2年終了時には180満点中120点をスコアとすることを目標に設定し、実施しました。
(2) 150点を超える生徒にはTOEIC受験を積極的に促しました。

■教員研修会

『授業改善』を目的に、今年度はアクティブラーニングの取り組みについて、各教科で研修会を実施しました。今後も実施し、教育力の向上に努めます。

生徒指導

■社会性規範育成への取組

社会的なモラルは学校生活においても不可欠です。学校独自としての規則だけではなく、その場の状況に適した言動が取れるよう、常日頃から生徒への指導を行いながら、コミュニケーションづくりを心掛けました。

■服装指導の実施

服装モットーは「凜とした爽やかさ」です。規定のものに限らず全てにおいてTPOに合わせ、清々しさを持った着こなしができるように、服装の指導を行いました。

■将来につながるリーダーの育成

体育祭、爽凜祭(学習発表会)、球技大会、オープンスクールなど様々な学校行事のほとんどは実行委員に主体性を持って運営をさせました。その各種の運営の中で企画力、実践力、思考力などを学び、個々の人間形成力と強調性を育成しました。

■挨拶の励行

気持ちを込めて挨拶ができるように、また、正しい言葉遣いができるように指導をしました。

■情報教育

インターネット等によるトラブルにまきこまれ

ないために岡山県警察本部より講師を招き、「インターネットモラル教育」の講演を実施しました。また、個人情報の扱いにおいても、その都度、指導をしました。

■家庭、地域社会との協力・連携強化

スクールバスの乗車指導・通学指導などの登下校指導の実施、毎日の生活ノートの確認など生徒の学校生活や地域および家庭での生活などをサポートしました。

■教育相談室・保健室との連携

生徒指導部と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化し、思春期である中学生期を心身ともに健康で過ごせるように努めました。

教務関係

■授業・学習関係

- (1) 行事や休日で抜ける授業は代講日の設定、平日補習、夏期補習、春期補習で補い、1単位当たり年間35時間の授業時間を確保しました。
- (2) 自習教室や平日補習を利用し、クラスの種別に関係なく、授業で理解できなかった部分の補いができる機会を創設しました。
- (3) 休業期間中の補習は進路指導課と連携し、夏期に8日、冬期に3日、春期に4日実施しました。実施科目は国語、社会、数学、理科、英語としました。各教科から指名を受けた生徒には、部活動より補習を優先させました。
- (4) 1年生では学習成績や本人の希望により選抜クラスからスーパー選抜クラスへの移動を認めました。

■カリキュラム・シラバス関係

授業(数)中心のカリキュラムから学習内容の理解度に応じた指導が可能なカリキュラムを作成し、授業で復習が十分できない場合は先取り学習に固執せず、学習内容の定着を第一と考え、取り組みました。

■考査関係

- (1) 定期考査の成績処理終了後、各教科に各学年の学習進捗状況の把握、授業計画書の見直しを求めました。
- (2) 成績不振と判定する基準点を設け、基準点に達していない生徒へ指導を行い、基準点を超えられるように補習を実施しました。実施期間中の部活動は原則禁止としました。
- (3) 新テスト対策として、教科横断型の考査出題をしました。

■情報発信

学年通信を発行し、生徒の現況を家庭に伝え教育活動への協力を求めました。文書とウェブの両方を活用しました。

生徒募集

■塾との関係

中学校入試における私塾の影響力は大きく、多様化する生徒・保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーな学校情報を提供してきました。

今年度も相当数の塾訪問を計画し、円滑に実施し、さらに入試直前において新聞等の告知を行い、生徒確保に努めました。

入試結果を踏まえた塾対象入試説明会を6月中旬に実施しました。

■情報提供

昨年度のオープンスクールや理科実験教室のアンケートによれば、参加動機の上位には常に「小学校からの案内」がランクインしています。小学校の自由研究系課題とリンクさせた企画内容を維持するとともに、学校の情報をインターネット等でも、迅速に幅広く提供しました。

■広報企画

昨年度新設した「県立中学校適性検査対策講座」「難関私立入学試験対策講座」には多くの児童保護者の参加がありました。今年度も継続実施し、本校

教職員の各入学試験分析力と入学試験作題力の向上を目指しました。

また、学校見学（個別 オープンスクール）にて、児童保護者に対し平素の学校を見学する機会を設け、3年生に開講する学校設定科目「理科実験」の授業日を積極的に呼びかけました。

- ① 県立中学校適性検査早期対策講座（5／7）
- ② 県立中学校適性検査対策講座（10／15）
- ③ オープンスクール（7／20、9／3）
（本校教職員による参加体験型授業）
- ④ 理科実験教室（7／30、8／27）
（岡山理科大学教員による参加体験型授業）
- ⑤ トワイライト天体観測（11／10）
- ⑥ ホームページ更新・・・見やすく、分かり易い内容に改善、研究。
- ⑦ 学校新聞「VIVA理中」・・・年4回発行
- ⑧ 募集要項・・・9月上旬完成。

■入試計画全般

- (1) 昨年度と一昨年度の入試日程と科目数について検証を行い、2次入試日程を少し早めました。また、4教科受験を可能にしました。
- (2) 一次入学試験B日程は本校会場のみとし、他会場を取り止めました。

主な行事

4月9日	入学式
4月16日	授業参観
4月21日	健康診断
5月28日	P T A総会
6月1日	音楽鑑賞
9月24日	体育祭（岡山ドーム）
9月27日～29日	修学旅行、勉強合宿
11月5日	爽凜祭（学習発表会）
1月20日	百人一首大会
2月2日～3日	校外活動
3月15日	義務教育修了式
3月17日～25日	海外研修
3月23日	終業式

生徒・教職員数

■在籍生徒数

(平成28年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	46	240	151

(単位：人)

■教職員数

(平成28年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員 計	事務職員
1	1	12	14	1

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

年度		28年度	前年度	
科目		決算額	決算額	
教育活動	収入	学生生徒等納付金収入	82,951	89,777
		経常費等補助金	62,528	62,989
		その他収入	3,110	4,469
		計	148,589	157,235
	支出	人件費	154,168	169,308
教育研究経費		28,094	32,163	
管理経費		15,762	12,350	
その他支出		0	0	
計		198,024	213,820	
教育活動収支差額		△49,436	△56,585	
教活外	収入	受取利息等	0	9
	支出	借入金利息等	0	0
	教育活動外収支差額		0	9
経常収支差額		△49,435	△56,576	
特別	収入	資産売却差額等	0	0
	支出	資産処分差額等	2	0
	特別収支差額		△2	0
基本金組入前収支差額		△49,437	△56,576	
基本金組入額合計		0	0	
当年度収支差額		△49,437	△56,576	

平成28年度 事業報告

岡山理科大学専門学校

建築と動物そして水生生物のスペシャリストを養成。学生、保護者、学校、地域、関連業界の皆様へ支持され愛される学校を目指します。



本校は、開校以来42年目を迎え、節目の50周年に向けて、企業・業界団体との連携を軸に、より質の高い教育を目指します。さらに、文部科学省が推進する

高度職業実践の高等教育機関創設という将来展望に対し、柔軟に対処できるよう、将来性を意識した学校運営に取り組んで参りました。

重点施策としては、

1. 業界団体の意見や要望に応え得る人材育成のために、職業人育成に主眼を置き、教育内容の改善を行いました。
2. 「職業実践専門課程」を有する学校として、業界団体等が行う技術研修への教員派遣を積極的に進め、教員の資質向上に努めました。
3. より実効性のある教育体制を構築するために、教員組織の改善に取り組みました。
4. 変遷する社会のニーズを真摯に受け入れるべく組織した将来構想検討会議の協議・検討内容を校内組織に浸透させました。
5. 本校の価値を伝えるという意識を全教職員が共有し、学校ブランディング効果を上げることができました。

岡山理科大学専門学校 校長 村岡 正

教育の充実

■全学科の「職業実践専門課程」認定に向けて

- (1) トリミング学科とドッグトレーニング学科の再・改編を行い、申請条件をクリアできるよう具体的な取り組みを行いました。次年度も、継続的に検討を行う予定です。
- (2) 既存認定学科の更なる教育の質向上に努め、認定効果を広くPRして、学校の存在価値と評価を高めることができました。

■動物看護師としての実務指導の充実

- (1) 新たに猫の飼育を取り入れ、看護実習に供与しました。

■教育課程の再編

- (1) 全学科の教育課程変更に伴うシラバスの改定を行いました。
- (2) 動物看護学科3年制（高度看護医療・臨床検査コース）において、動物医療機関と協力して動物の各種臨床検査の実務教育充実を図りました。

研究の充実

■産官学連携の教育

- (1) 関連団体等主催の各種研修会への教職員派遣を

推進し、最新の技術や知識を修得させ、教員個々の研究力向上を図りました。

- (2) 校内倫理委員会を昨年度設け、獣医療研究を推進に寄与できる体制にしました。

学生支援

■生活支援

- (1) カウンセラーの在校頻度を高め、学生の心のケアサポートに努めました。今年度は、学生および教職員合わせて、相談件数85件になりました。
- (2) 学校便り（R i S E N通信）を年2回（6月と11月に）発刊し、保護者へ郵送することで、保護者の学校理解を促進することができました。

■修学支援

- (1) 資格試験に向けた補講・補習に努めました。
- (2) チューター制を活かした学習相談の充実を図りました。

■就職支援

- (1) 一部の学科にはカリキュラムの中にキャリアデザインを1年次後期より開講し、職業人意識の高揚を図りました。
- (2) インターンシップを促進し、就職のミスマッチをなくすと共に就職の機会を拡大することができました。
- (3) 卒業生の就職先を訪問し、事業者と卒業生の声に耳を傾け、早期離職者の低減に努めることができました。

・ 就職活動ガイダンス

1年生	4月	キャリア教育講座 インターンシップ講座(1)(動物看護)
	6月	職業理解と労働法規講座 インターンシップ講座(1)(トリミング、ドッグトレーニング)
	12月	履歴書の書き方講座(1)(アカリウム)

1年生	1月	履歴書の書き方講座(1)(建築、動物看護、ドッグトレーニング、トリミング) インターンシップ講座(1)(トリミング、アカリウム)
	2月	合同企業説明会参加マナー講座(1)
2年生	4月	履歴書の書き方講座(2)(建築) 面接講座 インターンシップ講座(2)(動物系各学科)
	5月	合同企業説明会参加マナー講座(2) 内定礼状の書き方講座(トリミング)
	6月	内定礼状の書き方講座(建築、動物看護、ドッグトレーニング、アカリウム)
	7月	合同就職面接会参加マナー講座(3)

■留学生支援

日本語教科書の読解のサポートと日常生活支援に努めており、効果を上げることができました。

社会連携・社会貢献

■地域との交流

地元地域の行事に積極的に参画し、学生による水生生物の自然環境を守るため、川のゴミ拾いや掃除、動物愛護週間における動物愛護の街頭呼びかけボランティア活動を実施いたしました。

教育研究環境

■施設の充実

- (1) 学生利用施設の点検・補修に努め、快適な学校生活の充実を図ることができました。
- (2) 学校入り口の環境美化を実践しました。

学生の受入

■受験生との接触機会の拡大

- (1) 資料請求実績の高い地域・高校での進学説明会へ数多く参加し、直接的なPRを行いました。
- (2) SNSなどを利用したスマートフォン向けの情報発信も行いました。
- (3) 高い就職実績と資格取得率のタイムリーな情報を高校訪問時に提供して、高校側の進学生徒の動向把握要望に対応しました。
- (4) 社会人学生の受入を推進するために、ホームページ等に職業訓練給付制度の記載を行い対応しました。
- (5) オープンキャンパスにおいて、在校生を活用した学校PRの強化を行いました。
- (6) 今年度においても、全教職員で一斉広報活動を展開しました。
- (7) 志願者動向を踏まえ、募集定員の見直しを検討しており、次年度に向けての課題となりました。

内部質保証

■FD・SD

- (1) 校内教職員研修規定に則り、教職員研修を推進し、教職員の資質向上を図りました。
- (2) コンプライアンスの徹底を図り、信賞必罰の周知を行いました。
- (3) 本校の価値を測定し、価値を高める施策により、教職員の学校ブランド意識の共有化ができました。

その他の取組

■効率よい授業展開

授業担当者の見直しを進め、校内の人的資源を有効に配置することで、教育内容の向上に努めることができました。

■家庭で出来る犬の健康の開催

本校教員と学生が、犬と人の関係や関わり方について一般の飼い主さんとその犬たちに伝えるイベントにおいて、本校の実習や授業を活かし、動物系学科の校外活動の一貫として、常日頃学校で学んでいる当たり前のことが、一般の飼い主さんにとって、人と動物のより良い関係づくりや生活する上で役立つと考え、ヘルスピア倉敷で、11月12日・13日の2日間に実施しました。71名とその犬たち36頭が参加し、一般の方々に動物との接し方や関わり方を伝えることが出来ました。今後は、更に発展させていきたいと考えています。

主な行事

4月8日	入学式
4月9日 11、12日	オリエンテーション(夜間部) オリエンテーション(昼間部)
4月11日 14日	授業開始(夜間部) 授業開始(昼間部)
6月16日	球技大会
7月18日 ～8月21日	夏季休暇 (夜間部 8/1～)
9月5日 ～10日	前期末試験
9月28日	後期授業開始 (夜間部 10/3～)
10月22日 23日	Risen祭
12月24日 ～1月5日	冬期休暇
1月30日 ～2月3日	後期末試験 (夜間部 2/14～18)
3月20日	卒業式

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成28年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
工業 専門課程	建築学科(昼間部)	40	49	80	93
	建築学科(夜間部)	20	21	40	42
	福祉住環境デザイン学科 (募集停止)		—	—	—
	計	60	63	120	135
商業実務 専門課程	映像情報学科 (募集停止)		—	—	—
	計	(募集停止)	0	0	0
文化・教養 専門課程	動物看護学科 3年制	30	7	90	27
	" 2年制	20	26	40	46
	トリミング学科	40	24	80	42
	ドッグトレーニング学科	40	22	80	49
	アクアリウム学科	40	38	80	73
	計	170	117	370	237
合計		230	180	490	372
専攻科	建築学科専攻科	10	12	10	12
研究科	動物系総合学科研究科	10	11	10	11

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成28年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
岡山理科大学専門学校	182	137	132	96%	27	27	3	4

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成29年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	(株)荒木組、岡山市役所、(株)山陽設計、トヨタホーム岡山(株)、ACC福山総合動物医療センター、介護老人保健施設 おとなの学校 岡山校(ドッグセラピスト)、倉吉動物医療センター・山根動物病院、アダチペットショップ、ドッグサロン バナナ、tomoドッグスクール、(株)池田動物園(岡山県鳥獣保護センター)、ペットショップヤマモト、岡山中央魚市(株)、ジャパンマリポニックス(株)、(株)ファームスズギ、他99社
-------	---

■教職員数

(平成28年5月1日現在)

校長	教員	教員 計	事務職員
1	12	13	12

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	
		28年度 決算額	前年度 決算額
教育活動 収入	学生生徒等納付金収入	315,387	322,572
	経常費等補助金	64	66
	その他収入	63,420	3,982
	計	378,871	326,620
	教育活動収支差額	49,587	9,806
教育活動 支出	人件費	228,546	219,248
	教育研究経費	73,051	71,513
	管理経費	27,687	26,053
	その他支出	0	0
計	329,285	316,814	
教育活動外 収入	受取利息等	1	20
教育活動外 支出	借入金利息等	246	966
教育活動外収支差額	△245	△946	
経常収支差額	49,341	8,860	
特別 収入	資産売却差額等	193	905
	資産処分差額等	△12	120
特別収支差額	205	785	
基本金組入前収支差額	49,546	9,645	
基本金組入額合計	△24,257	△35	
当年度収支差額	25,289	9,611	

■施設設備整備事業

(単位：千円)

事業名	金額
第三校舎2階キャットルーム設置	500

平成 28 年度 事業報告



玉野総合医療専門学校

21世紀の医療・保健・福祉のスペシャリストを育成します。



1. 教育面については、国家試験の全員合格を目標に全学を挙げて取り組みます。また同時に、少子高齢社会を迎えた社会に的確に対応できる人材の養成に取り組みました。
2. 研究面については、教員と学生の研究・症例研究活動の充実を図り、教員のみならず学生における現状の深層理解と改善能力のスキルアップを図りました。
3. 臨床実習を基軸として、現在の医療・福祉現場の理解を深め、地域貢献の充実を含む現状の改善・改革を推し進めました。
4. 産学官連携を目指し、玉野市との連携を充実させるとともに、加計学園の一員として産学官連携活動へも積極的に参画しました。

玉野総合医療専門学校 校長 平井 義一

教学の充実

■カリキュラム

保健・医療・福祉のスペシャリストの養成校として、保健看護学科、介護福祉学科、理学療法学科および作業療法学科において、それぞれの学科で目指す国家資格に係る分野の基礎から専門基礎、専門へと体系的なカリキュラムを構築し教育を行いました。

■教育改革

現在の社会が求める保健・医療・福祉のニーズに合った教育を追及するために、保健・医療・福祉の第一線で活躍する非常勤講師や臨床実習の指導者と連携し、最新の保健・医療・福祉の現場で必要とされる知識や技能について情報交換を行い、現場で必要とされる最新のニーズを意識した教育内容について検討を行いました。

■FD推進

多様な学生に対応するための教育・指導力向上に取り組みました。具体的には、教員自身で行う自己点検評価、学生による授業アンケートの実施（前期・後期）、校長、副校長などによる授業観察を実施しました。

また、自己研鑽できるよう個人研究費を配分し、学会への参加、論文発表、セミナーへの参加を促進しました。

■教員定員

医療・福祉の専門職の養成校として、学科ごとに法令で定められた定数の教員を確保しました。

研究の推進

■研究活動の推進

(1) 教員の研究活動を推進しました。本校の主たる目的は教育活動であることは言うまでもありませんが、同時に研究活動を通じて最新の研究成果を学生に還元することも重要と考えます。そのため、学校全体あるいは学科の教育活動とのバランスを考慮し、可能な限り研究活動を行える環境を整えサポートしました。

具体的には、教員に対する個人研究費を付与、大学院への進学許可およびイベント実施日の勤務体制の配慮、研究推進のための施設設備の利用許可などの支援を行いました。

(2) 学生の研究能力の開発を推進しました。保健看護学科では、看護研究の意義と目的を理解し、研究の進め方と方法の基礎的知識を得ることをねらいに講義・演習を行いました。特に、3年次・4年次の看護学実習を通して、自らの体験を振り返り、客観的に見つめ直し、患者の反応の意味や看護の価値、よりよい援助の在り方、看護の現象を考えていけるよう、ケースレポートの作成に段階的に取り組ませ報告会で共有しました。理学療法学科、作業療法学科では3年次後期からグループ研究を開始し、4年次後期に発表会を行いました。また、介護福祉学科では、2年次前期には事例研究を後期には別の事例研究を行い個々が発表する機会を設けました。

■学内紀要への積極的投稿

昨年に引き続き紀要を作成しました。例年、2年に1回のペースで発行していましたが、研究を奨励し、研究成果を発信する機会を設けるために昨年に引き続き今年度も発行しました。

今年発刊した第11巻では、6件の研究および2

件の報告が寄稿されました。

学生支援

■修学支援

(1) 新入生の基礎学力を向上させるためのリメディアル教育を充実させました。

新入生の学力を把握するために前期の授業が始まる前に基礎学力試験を行いました。試験の結果を踏まえ、各学科で必要となる基礎学力と学生個々の学力差を確認し、個々の学力に応じたプログラムによるきめ細かなリメディアル教育を実施しました。

(2) 学生個々の学力に合った指導を充実させました。

授業の前後、放課後および空きコマを利用し、学生への個別相談や個別指導を行いました。特に小テストなどで理解度を確認し、講義内容への理解が不十分な学生には教員が積極的にアプローチし学生の理解度を高めるための指導を行いました。

■海外研修の実施

9月6日から9月17日、アメリカ研修を実施しました。学生8名と引率教員2名で研修団を結成。シェネンドア大学(ウィンチェスター市)での研修、ホームステイ、首都ワシントンDC、ロサンゼルスなどで文化体験を行いました。

■障がい学生等の支援

現在、障がい学生が在籍していないが、受け入れに関する相談、支援体制の充実を検討しました。

■生活支援

(1) チューター、コーディネーター制の導入によるサポート体制を充実させました。保健看護学科では、1学年に2名のコーディネーターを配置し、実習指導で手薄になった際にもサポートができる体制を整えました。

また、介護福祉学科、理学療法学科および作業療法学科では担任制を導入し、きめ細かなサポートを実施しました。

- (2) 外部からスクールカウンセラー並びに診療所勤務の現役の心理士を招き、定期的にカウンセリングを行いました。カウンセリングは事前予約制とし、教室から離れた場所にカウンセリングルームを設けるなど学生のプライバシーに配慮し、学生が相談し易い環境を整備しました。
- (3) 無料のスクールバスを岡山駅西口～本校間、倉敷駅～茶屋町駅～本校間で運行し、遠方から通学する学生のサポートを継続しました。
- (4) 部活動を奨励するとともに活動を支援しました。軟式野球、サッカーを始め多くの運動系とハンドクラフト、手話などの文化系の部が活動しています。活動の成果として平成28年度岡山県専門学校交流スポーツ大会で総合優勝を果たしました。また、硬式テニスと卓球は、岡山県内の予選を勝ち抜き、全国大会に出場しました。部活動が安全かつ活発に行えるよう教職員が顧問に就任し、練習する曜日を定め活動しました。

顧問が不在時などは、活動ができるよう代理顧問が活動を見守る体制を整備しました。また、大会直前には、学生の意向を尊重し追加練習に付き合うなど正課外活動の人的支援を行いました。

また、全国大会に出場が決まった際には、教職員を対象にした支援金の募集活動や同窓会と連携した遠征費の一部支援を行いました。

■就職支援

- (1) 求人情報を素早く開示し、学生の就職活動を支援しました。寄せられた求人は、内容を確認出来次第、学生がいつでも閲覧できるよう開示をしました。
- (2) 各学科で就職担当者を決め、学生の希望、学習状況などを鑑み、個別に就職相談に応えました。
- (3) 保健看護学科では、1年次から4年次へと段階を踏んだガイダンスを実施し、入学後から就職に対する意識付けを行いました。

■その他

- (1) 学生指導主任者を選任し、責任を持って学生指

導を行いました。また、定期的に各学科の学生指導主任者と事務局で会議を開き、学生指導に関する協議を行いました。

- (2) 学生総合補償の保険料を学校が負担し全学生が安心して学内での学習、学外での実習並びに部活動ができる環境を作りました。

- (3) 学科・学年ごとに最適な時期に教育・進路懇談会を実施し、学生の学校生活、家庭での状況などの情報を共有し、学生の変化に即応できるよう保護者と教職員が連携した学生サポートを行いました。

社会連携・社会貢献

■行政機関との協定

玉野市と連携協力し、市民向けのアカデミックな公開講座をはじめ生涯教育に関する出張講義、地元の中学生、高校生を対象とした講義や模擬授業を積極的に実施しました。また、たまの・港フェスティバルや玉野まつりなど地域のイベントへも積極的に参加し、地域になくなくてはならない存在として貢献しました。

■公開講座

医療・保健・福祉に関する最新情報を提供し、市民の暮らしをサポートしました。今年度は、『健康たまの』をテーマに、10月8日を皮切りに、「健康寿命をのばす」、「食中毒について」、「いつまでも自分らしく生活を送るために」をテーマに3回の講座を実施しました。

■地域活動への参画、国際交流への参加

- (1) 各種イベントへ参加し、地域に貢献しました。

玉野市最大のイベント「たまの・港フェスティバル(7月)」に参加し、無料の健康増進体験ブースを出店しました。

また、玉野の中心地で行う盆踊り大会「かつから祭り(8月)」では、今年度は約100名の学生並びに教職員が踊り連に参加しました。

(2) 海外からの研修団受け入れ、外国との交流を行いました。学校法人加計学園と教育交流協定を締結しているアメリカ ライト大学、同 フィンドリー大学から訪日文化研修団を受け入れ、学生主体による交流会を実施しました。主な取り組みとして英語による学科紹介、日本の文化体験として餅つき体験などを行い、最後にソーラン節を全員で踊り、同世代の外国の学生と接することで、国際理解・協力的一端を経験しました。

■ボランティア活動

地域からの要望に応えた連携協力活動を実施しました。学生ボランティアの募集情報は内容を精査し学生掲示板に掲示、あるいは直接説明を行いました。また、ボランティア活動を学習成果の一部として認定する学科もあり積極的に推進しました。

教育環境

■設備の充実

教育環境を充実するために備品を購入しました。具体的には、保健看護学科の演習用に看護実習、介護実習、吸引実習用モデル、吸引実習機器、授業支援用に ipad air2 を購入しました。また、理学療法学科では、心拍変動測定器一式、最新の理学療法であるスリングエクササイズで使用するレッドコードメディアカルプロを導入しました。また、大幅なカリキュラム改定に対応するよう教務システムをリプレースしました。

学生の受入

■学生の受入方針

学生の能力、適性、可能性を確認し、優れた人材の確保に努めるために、志望理由書などの書類審査、面接審査、口頭試問、小論文審査、筆記試験などによるさまざまな選考方法で入試を実施しました。

■入試方法等

AO入試を始め、特別入試、推薦入試、社会人入試および一般入試など多様な入学試験を実施し、多様な学生を選抜しました。また、岡山県以外からの入学希望者に応えるために地方会場も設けました。

■オープンキャンパス

多様なオープンキャンパスを実施し、本校の魅力を伝えました。平成27年度オープンキャンパスの開催日数及び内容に新たな内容を加え、高校生や保護者に魅力あるイベントを実施しました。

また、山陰、姫路、福山方面からの受験者の確保を目指し、送迎のためのバスを運行しました。

■職業訓練生委託事業

行政が行う職業訓練事業(介護福祉士養成)に応募し、訓練生を受け入れる体制を構築しました。

内部質保証

■自己点検

自己研鑽、検証制度を実施し、PDCAサイクルによる目標、実行、検証、改善について自己点検・評価を実施することで学生への教育力向上に役立てました。

■内部監査

授業観察を実施し、教育向上に努めました。専任教員を対象に授業観察を実施し、授業の方法や工夫などについて、客観的に評価するもので、校長以下副校長、学科長、事務室長が観察を行いました。

■学外者の意見の反映

学外者の意見を反映し、教育の充実、改善を図るための外部評価委員会に関する規程の整備を開始しました。

その他の取組等

■正課外活動の支援

保健、医療、福祉分野のアルバイトを紹介し、授業の理解や臨床実習などの実習教育に結びました。

人事・組織

■適切な人材の確保、配置

適正な教職員を確保し適切な配置により、教育の充実を図りました。

主な行事

4月4日	入学宣誓式
5月7日	宣誓式（保健看護学科）
5月22日	第1回オープンキャンパス
6月15日	AO入試エントリー開始
6月24日	第2回オープンキャンパス
7月1日	国際交流（外国人研修団受入）
7月2日	岡山県専修学校交流スポーツ大会
7月23日	第3回オープンキャンパス
7月23・24日	たまの・港フェスティバル
8月6日	第4回オープンキャンパス、玉野まつり
8月27日	第5回オープンキャンパス
9月3日	教育進路懇談会（介護福祉学科）
9月6日～	海外研修（アメリカ合衆国）
9月17日	教育進路懇談会（保健看護学科、理学療法学科）
9月24日	第1回入試説明会
10月4日	宣誓式（介護福祉学科）
10月8日	公開講座（1回目）教育進路懇談会（理学療法学科）
10月15日	特別入試、社会人入試Ⅰ期他
10月22日	公開講座（2回目）
10月23日	教育進路懇談会（作業療法学科）
10月28・29日	優勇祭（学校祭）
11月5日	教育進路懇談会（保健看護学科）
11月12日	推薦入試Ⅰ期
11月19日	公開講座（3回目）
12月10日	推薦入試Ⅱ期、社会人入試Ⅱ期
12月17日	第2回入試説明会
12月下旬	壮行式（理学療法学科、作業療法学科）
1月11日	鏡開き（介護福祉学科）
1月28日	一般入試Ⅰ期
2月下旬	国家試験受験
2月25日	一般入試Ⅱ期
3月4日	非常勤講師連絡会議
3月10日	卒業証書授与式
3月11日	教育進路懇談会（保健看護学科）
3月17日	実習指導者連絡会議
3月25日	第6回オープンキャンパス
3月27日	一般入試Ⅲ期

学生・教職員数

■在籍学生数

(平成28年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
医療専門課程	保健看護学科	40	39	160	155
	理学療法学科	40	35	160	154
	作業療法学科	40	19	160	88
	計	120	93	480	397
教育・社会福祉 専門課程	介護福祉学科	40	9	80	34
	計	40	9	80	34
合 計		160	102	560	431

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成28年度)

区分	卒業生	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
玉野総合医療専門学校	104	100	100	100%	2	36	4	30

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成29年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	岡山医療センター、岡山県精神科医療センター、岡山赤十字病院、岡山労災病院 吉備高原医療リハビリテーションセンター、特別養護老人ホーム 若宮園 他
-------	---

■教職員数

(平成28年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計	事務職員
1	1	30	32	8

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	
		28年度 決算額	前年度 決算額
教育活動収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	449,017	488,816
	経常費等補助金	26,027	25,039
	その他収入	35,399	13,687
	計	510,443	527,542
支出	人件費	392,375	393,797
	教育研究経費	102,353	107,572
	管理経費	39,846	40,855
	その他支出	225	42
	計	534,799	542,267
教育活動収支差額		△24,356	△14,725
教育活動外	収入		
	受取利息等	1	29
	借入金利息等	0	0
教育活動外収支差額		1	29
経常収支差額		△24,355	△14,696
特別	収入		
	資産売却差額等	1,545	0
	資産処分差額等	16	0
特別収支差額		1,529	0
基本金組入前収支差額		△22,825	△14,696
基本金組入額合計		△6,333	0
当年度収支差額		△29,158	△14,696

平成28年度 事業報告



学校法人 加計学園

御影インターナショナルこども園

MIKAGE INTERNATIONAL KINDERGARTEN

「Be a Global Japanese! 一流の日本人になれ！」をコンセプトに、0歳児～5歳児の乳幼児を対象とした教育保育を行っています。

併設：御影小規模保育ルーム(神戸市小規模保育事業)

併設：M-KISS (学童保育事業)



御影インターナショナルこども園は、開園より3年が経過し、今年、初めての卒園児を小学校に送り出しました。

本園の教育保育方針である「日本人としてのアイデンティティを身につけ、世界中の人たちと友だちになれる人材を育てる」を具現化するため、本園の特色ある3つの柱「MIK教育プログラム」「英語イマージョンプログラム」「生活プログラム」を中心とした教育保育の実践により、それぞれの個性を伸ばし、発達段階に応じた生きる力を育みました。

御影小規模保育ルームにおいても、家庭的な保育環境を整え、保護者のニーズに合った教育保育に取り組みました。

また、M-KISSにおいても、英語イマージョン教育を中心に、小学生の放課後を安全安心して過ごせる場の提供を行いました。

今年度は、特に以下の項目において重点的に具体的に取り組みました。

- ① 保小連携
- ② 他園（幼稚園・保育所等）との連携
- ③ 施設設備の充実
- ④ 財務改善

御影インターナショナルこども園園長 西原 豊子

御影インターナショナル こども園

■教育活動計画

1. 0-1歳児

情緒の安定を第一に考え、保護者との連携を密にし、家庭生活とのバランスを取りながら保育を行いました。また、本年度は0歳児クラスにおいても、9月より石井式漢字教育を取り入れ、国語教育の礎を養いました。

2. 2歳児

前述の保育内容に加え、プレイマージョンとして歌、体操、絵本読み聞かせなどについて積極的に英語を使った保育を行いました。また、心身の健全な発達を促すことを目的に、体育遊びの外部講師を招聘しました。

3. 3-5歳児

外国人教員と日本人保育士がペアでクラス運営にあたり、イマージョンディレクターが作成したプログラムに沿って、英語イマージョンプログラムを行いました。1月には、4・5歳児がCambridge Exam, Starters（ケンブリッジ国際児童英検スターターズテスト）を受験し、達成度を確認しました。

外部講師を招聘し、絵画造形、運動（サッカー・体育あそび）および論語のクラスを定期的を実施しました。また、鍵盤ハーモニカについても、外部講師を招聘し、4・5歳児に指導をいただくなど、園児たちの興味と関心を広げ、大きく育てるための活

動を実施しました。

■他園との連携

子ども同士がふれあう機会を充実させ、人と繋がる力を育むために、近隣の幼稚園や保育園、インターナショナルスクールとの園児交流を行いました。

■保小連携

3月には、初めての卒園児が小学校に進学するにあたり、本園での生活の様子を要録として纏め、小学校に送りました。また、卒園後の進学に対する保護者のニーズに応えるため、近隣の公立小学校および私立小学校からの情報収集など、保小連携に取り組みました。

M-KISS

■教育活動計画

安心できる放課後支援の場として、地域の学童待機児童の受け皿として事業を行いました。英語イマージョン教育の学習効果を高め、シームレスな授業を展開するため、習熟度に応じたクラス編成を行い、同レベルの児童が共に学ぶ環境を整備しました。

また、新単元の授業日と復習を中心とした授業日を明確に分け、学習した内容の着実な定着に努めました。

御影小規模保育ルーム

■保育活動計画

1. 0-1歳児

健やかな生活を確立できるための環境を整えるとともに、健康や安全など日常生活に必要な基本的な習慣や態度が身につけられるよう働きかけを行いました。1歳児からは、石井式漢字教育を取り入れ、国語教育の礎を養いました。

2. 2歳児

前述の保育内容に加え、様々な体験ができる環境を整え、子どもの思いに共感しながら、豊かな感性を育むよう働きかけを行いました。

■地域との連携

地域社会の一員であることを自覚して、地域の方々との触れ合いを深めました。また、関係機関とのネットワークを通じて連携を図りました。

社会連携・社会貢献

■地域への貢献

地域の子育て家庭のため、毎月、園庭解放を行い、多くのご家庭にお越しいただきました。

7月には、夕涼み会を行い、縁日あそびや盆踊りなどを行い、地域の方に多数来園いただきました。

9月には、地域の老人会と交流を行い、楽しい時間を過ごしました。

10月には御影地区で行なわれている「みかげスイーツロードと公園のあかり」に協賛し、園庭を解放しました。大型絵本の読み聞かせや、英語でのパネルシアターの実施など、近隣の子育てをしている方々に多く来場いただきました。

更に、12月にはファミリーコンサートを開催するなど、地域の子育て支援を積極的に実施しています。

■地域活動への参画

地域の清掃活動や、神社の行事に積極的に参加し、地元との交流を深めました。

■ボランティア活動、就業体験受入

今年度も、地域ボランティアの皆さんに、しめ縄づくりや餅つきなどの行事に協力をいただきました。

近郊の大学からは、保育士を目指す就業体験学生の受け入れを行っており、今年度も9名の学生を受け入れました。

中学生が職場体験、福祉体験、勤労生産活動を行

う兵庫県独自の事業「トライやる・ウィーク」についても、平成28年度も就業体験生徒の受入を継続して行い、3校より11名の生徒を受け入れました。

環境整備

■施設の充実

年次進行で園児増となり、年齢に応じた遊びが必要となったことより、雲梯を中心とした大型遊具を追加導入しました。

■図書の実充実

保育士の読み聞かせや子どもたちが読書に親しむための絵本などの、児童・幼児用図書の充実を図りました。また、絵本に親しむ機会を増やすため、8月より「ふくろう文庫」を開設し、絵本の貸し出しを開始しました。

■安全管理、健康管理

乳幼児や小学生の安心安全を担保する為、職員全員が、施設・遊具等の安全管理、感染症の予防などの健康管理の徹底を図りました。また、平成28年3月に内閣府が作成した「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」について職員に徹底する取り組みを実施しました。

園児の健康管理について、保護者との情報の共有に努めるとともに、内科健診、歯科検診、眼科検診、耳鼻科検診を定期的実施し、早期発見、早期治療に努めました。

また、避難訓練を毎月実施し、防災への取り組みを継続して実施しました。また、毎年1月に神戸市全域で行なわれるシェイクアウト訓練に、本年度も参加しました。

■職員研修

園内研修については、保育士の能力向上を図るため、外部講師を招聘するなどして、計画的に実施しました。

園外研修についても、関係機関と連携して、職員の派遣を積極的に行いました。

園児の受入

■園児・児童の受入方針

家庭によっておさまの子育ての方針は、様々なことより、御影インターナショナルこども園及びM-KISSについては教育保育方針・目標などの内容を十分にご理解いただいたうえで、入園となるように努めました。

御影小規模保育ルームは認定施設のため、神戸市からの割り当てにより入園者を受け入れました。

■入園説明会・園庭解放

御影インターナショナルこども園では、新2歳児クラス以上への入園希望者を対象とした入園説明会を7回実施しました。新0～1歳児クラスへの入園希望者に対しては、個別見学を随時実施しました。また、園庭開放を毎月実施し、希望者に対しては、施設見学や園の方針の説明を行いました。

M-KISSにおいては、英語イメージ教育の内容や施設設備などに納得いただくため、個別見学を随時実施しました。

御影小規模保育ルームについても、神戸市へ支給認定手続き及び利用申込みの提出の際に、多くの入所希望者に選択いただけるよう、個別見学を随時実施し、園の保育方針の説明を行いました。

主な行事

4月2日	入園式
5月14日	親子のつどい
6月第3週	保育参観・個別懇談
7月29日	夕涼み会（地域・保護者参加）
9月8日	地域老人会交流
9月15日	祖父母参観日
10月1日	運動会
10月31日	ハロウィンパーティー
11月10日	七五三詣り（弓弦羽神社）
11月19日	保育参観・クラス懇談会
12月17日	みんなの発表会（乳児）
12月22日	クリスマス会
1月6日	お餅つき
2月18日	みんなの発表会（幼児）
3月18日	卒園式

その他行事

園庭開放(毎月)、入園説明会(7回/年)、誕生日会(毎月)、遠足(3回/年)、初詣、音楽会(1回/年)、科学教室(関連校連携、1回/年)、子育て講座(地域・保護者向け)

財務関係

■施設設備整備事業

(単位：千円)

事業名	金額
保育施設2用途変更に伴う改修工事	3,922
園庭への大型固定遊具の設置	1,450